

—あらゆる人に生涯音楽プロジェクト—

MUSIC with LIFE for ALL PROJECT

M L A P

(ムラップ)



2018年度～2020年度

障がい者の多様な学習活動を総合的に支援するための
超参加型の音楽活動を軸とした実践研究

から

2021年度

地域連携による障がい者の生涯学習機会の拡大促進を
総合的に支援するための
超参加型の音楽活動を軸とした実践研究

へ



<MLAPの生涯学習としての意義>

- MLAPは誰もが参加できる音楽イベントを開くことで、自尊心の向上や精神的な安定を得ながら自立や自律に繋がり、参加して下さったみなさんの心と心をつないで豊かな地域生活を送ることができるようになる効果をねらいとした生涯学習プログラムです。



- MLAPは、音楽体験を通して障がいのある人が社会参加できる機会を増やすこと、また地域住民みんなと一緒に音楽活動をするることによる障がいへの理解を含めた共生社会、そのように、みんなが共に歩むことができる社会の実現への力になると考えます。

<目次>

目次	1
3年間のMLAPの目標・そしてMLAPは4年目へ！	2
2021年度ポンチ絵	3
MLAPの連携・MLAPは福岡市のすべての区で開催します	4
MLAPでは11の活動を組織的に実施しています	5
MLAPの特徴	6
MLAPのプログラム・MLAPの構造	7
MLAPの動画への取り組み	8
多様なMLAPの活用方法	9
MLAPの動画分析	10
4年間学校卒業後における障害者の学びの支援に関する研究実践事業に取り組んで・下山いわ子	14
MLAPのパンフレット	17
MLAPあらゆる人に生涯音楽プロジェクトオンライン実践報告会ーお互いを尊重し合える共生社会を願ってMLAPがかけはしに！・米倉裕子	18
超参加型音楽イベント実践報告・コミュニティ対象（高齢者・人権研修）（三筑公民館）	28
超参加型音楽イベント実践報告・親子で楽しむ音楽遊び♪	30
超参加型音楽イベント実践報告・りんりんりんくすV	32
超参加型音楽イベント実践報告・障がいと共にある人の家族やサポーター対象	35
MLAP実践報告会	37
参加者の声	50
報告会アンケート結果	52
MLAPの活動を広げるために・文部科学省の方との意見交換会	57
MLAPの活動を広げるために・福岡市特別支援学校長会でMLAP紹介・活用の提案	62
MLAPの活動を広げるために・花畑公民館長との面談	63
MLAPの活動を広げるために・生涯学習課と共同・公民館との連携	65
広がっていくMLAPの活動	66
学会報告	68
定例実践報告	69
共生社会を見据えた調査結果	72
今後のMLAPの展開	76
MLAP連携協議会委員のMLAPへの想い（4年目を終えて）	77
博多音楽療法コミュニティ LINKS	86
連携協議会・実行委員会開催報告	90
連携協議会構成員・実行委員会構成員	91
福岡市手をつなぐ育成会保護者会について	92

<3年間のMLAPの目標>

1年目

活動をしなが
ら、参加型の音楽活動
を知ってもら

2年目

連携を深める
活動を充実させる
ボランティアの拡充
成果の分析を行う

3年目

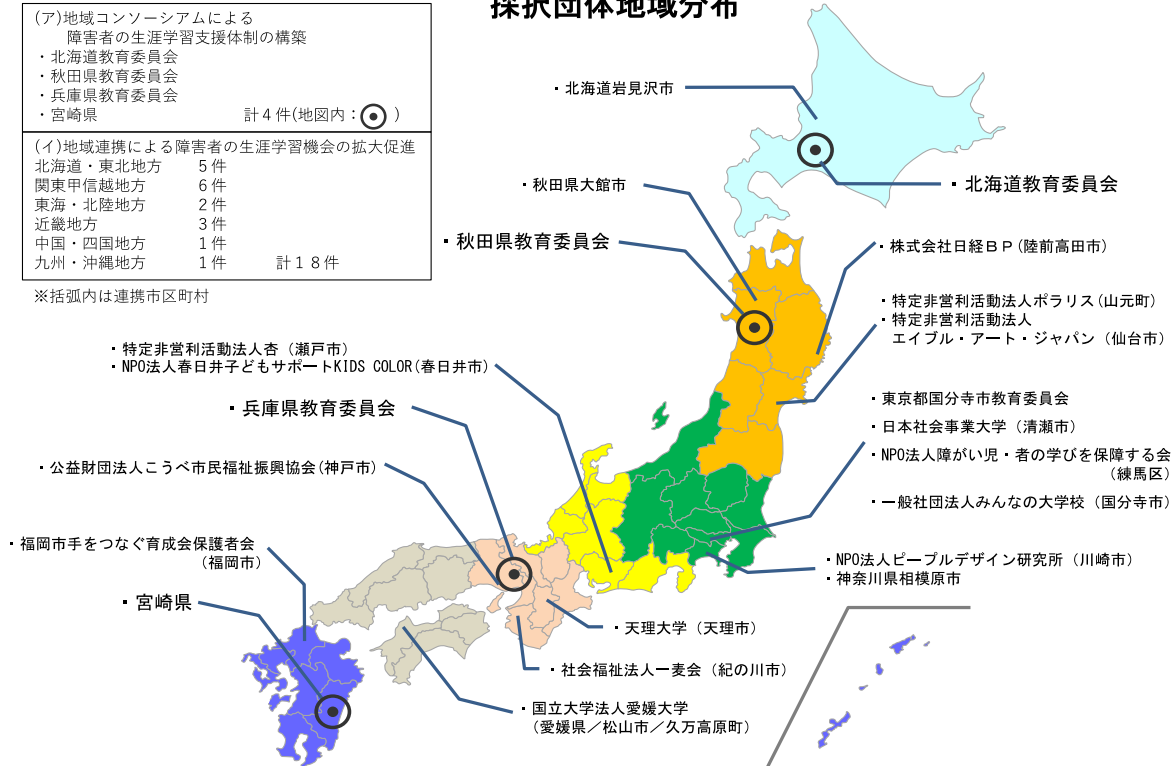
身近な地域で成果
を見込めるプログラ
ムの完成

<そしてMLAPは4年目へ!>

令和3年度「地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究」 採択団体地域分布

(ア)地域コンソーシアムによる 障害者の生涯学習支援体制の構築	
・北海道教育委員会	
・秋田県教育委員会	
・兵庫県教育委員会	
・宮崎県	計4件(地図内:◎)
(イ)地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進	
北海道・東北地方	5件
関東甲信越地方	6件
東海・北陸地方	2件
近畿地方	3件
中国・四国地方	1件
九州・沖縄地方	1件
	計18件

※括弧内は連携市区町村



令和3年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」
採択団体実施主体別・主な対象障害種別取組一覧 (計22団体) ◎=地域コンソーシアム形成事業 ※括弧内は連携自治体

都道府県 (4件)	◎北海道教育委員会	NPO 法人 (6件)	NPO法人障がい児・者の学びを保障する会(東京都練馬区) 【知的障害】
	◎秋田県教育委員会		特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン(宮城県仙台市) 【知的障害・発達障害・精神障害・肢体不自由・視覚障害・聴覚障害】
	◎宮城県		NPO法人ビーブルデザイン研究所(神奈川県川崎市) 【知的障害・発達障害・精神障害・肢体不自由】
◎兵庫県教育委員会	特定非営利活動法人ポラリス(宮城県山元町) 【知的障害・発達障害・精神障害】		
市区町村 (4件)	国分寺市教育委員会 【知的障害】		特定非営利活動法人杏(愛知県瀬戸市) 【知的障害・発達障害・精神障害・肢体不自由】
	相模原市役所 【知的障害・発達障害】		NPO法人春日井子どもサポートKIDS COLOR(愛知県春日井市) 【知的障害・発達障害・精神障害・肢体不自由】
	北海道岩見沢市 【知的障害・精神障害】	社会福祉法人・一般社団法人・公益財団法人・企業等 (4件)	
秋田県大館市 【知的障害・発達障害・精神障害・肢体不自由】	社会福祉法人一妻会(和歌山県紀の川市) 【知的障害・発達障害・精神障害・肢体不自由】		
大学 (3件)	学校法人日本社会事業大学(東京都清瀬市) 【視覚障害・聴覚障害】		一般社団法人みんなの大学校(東京都国分寺市) 【知的障害・発達障害・精神障害・重度障害・難病等】
	国立大学法人愛媛大学(愛媛県/松山市/久万高原町) 【重度障害】	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会(兵庫県神戸市) 【知的障害】	
	天理大学(奈良県天理市) 【知的障害】	株式会社日経B P(岩手県陸前高田市) 【知的障害・発達障害・肢体不自由】	
		保護者の会 (1件)	福岡市手をつなぐ育成会保護者会(福岡県福岡市) 【知的障害】

令和3年度 地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進概要

福岡市手をつなぐ育成会保護者会(所在地:福岡県福岡市)

事業名 <MLAP(ムラップ) Music with life for All Project—あらゆる人に生涯音楽プロジェクト—>

主な連携先 福岡市市民局コミュニティ推進部生涯学習課
博多区役所生涯学習推進課 三筑公民館

主な対象 障がい種は問わない・地域住民

事業の趣旨・目的

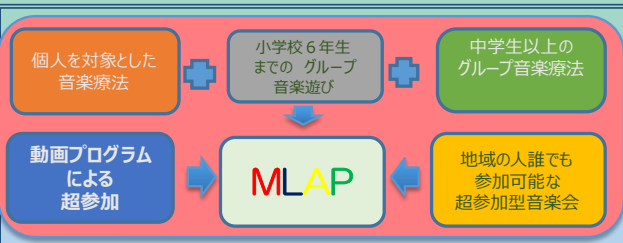
<生涯学習としての意義>

- MLAPは、超参加型音楽会を通して、自尊心の向上や精神的な安定を得ながら、自立や自律に繋がり、豊かな地域生活を送ることができるようになる効果をねらった生涯学習プログラム。
- 障がいのある人が社会参加する機会が増えること、地域住民とともに活動することで障がいへの理解が進み、共生社会の実現にも寄与すると考える。

事業実施体制



学習プログラムの内容



研究の成果と課題

♪コミュニティ対象の超参加型音楽イベントの実施 ♪4つの音楽活動要素(歌唱・楽器活動・身体活動・鑑賞)を組み合わせた学習プログラムの構築 ♪実施場所の開拓(さまざまな対象者が参加出来たり、身近な場所で気軽に参加できるような地域に定着できる場所) ♪MLAP動画の作成・配信 ♪超参加型音楽イベント参加者の変化についての調査と分析 ♪超参加型音楽イベントのインストラクター(MLAPPERS)の発掘・トレーニング ♪ボランティアメンバーの連携 ♪生涯学習プログラムとしてのMLAPの為にあらゆる人たちの連携 ♪超参加型音楽イベントをセンターに据えたコミュニティデザインの構築と実現

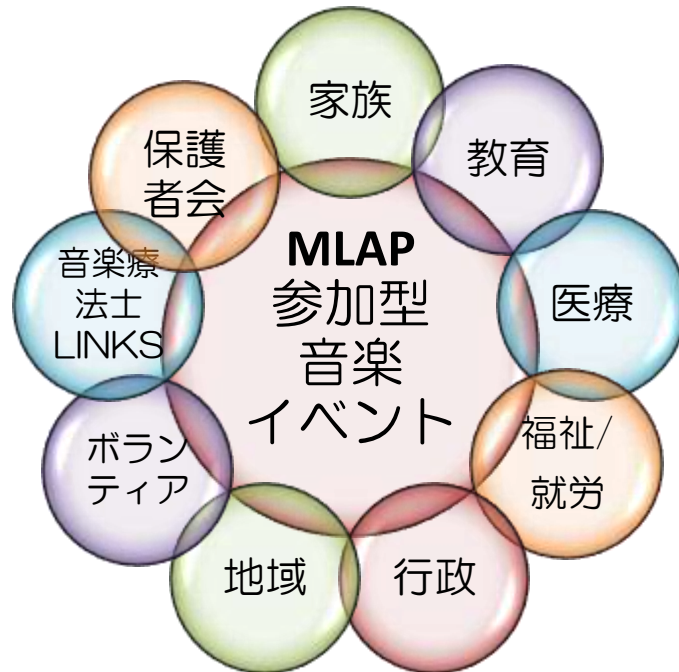


その他研究の詳細など

MLAPの動画です♪みんなで楽しんでください♪感想は是非 hogsha@fuku.jp へ♪

身体運動	手話ソング1	手話ソング2	楽器削り	絵本	拍手活動

MLAP はさまざまな方と連携しています



MLAP は福岡市のすべての区で開催します



- 東区
- 博多区
- 中央区
- 南区
- 城南区
- 早良区
- 西区

—あらゆる人に生涯音楽プロジェクト—

MLAP Music with Life for All Project



障がいのある人の生涯学習プログラムの開発のために、
MLAPでは11の活動を組織的に実施しています

MLAP 動画

超参加型音楽イベント
年齢・性別・国籍・障がいの
有無などに関わらず、
地域住民の誰もが参加できる

障がいがある
小6までの児童の
グループ音楽遊び
ビートン

障がいがある
中学生以上の人
の小グループ音楽療法
ノートン

障がいがある
個人を対象とした
音楽療法<ほっぷ！>

保護者対象の
音楽体験

シンポジウム

ワークショップ

音楽療法士を中心
とした勉強会
LINKS

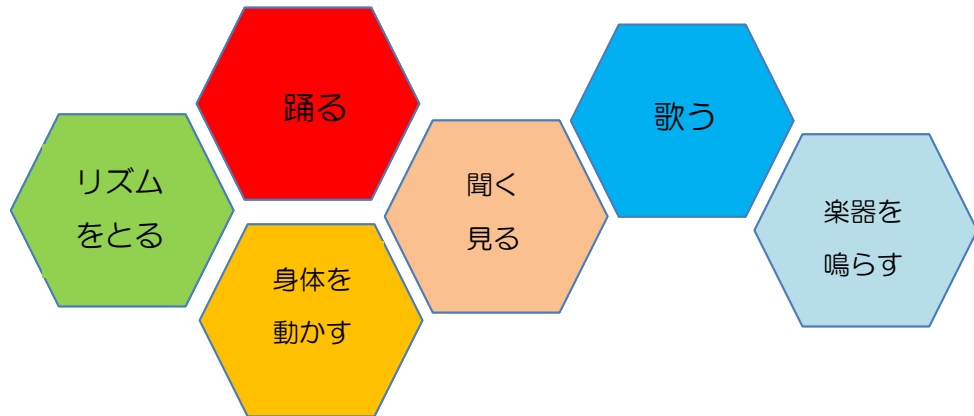
ボランティア
養成講座

視察

MLAPの特徴

- MLAP が超参加型音楽活動を手段とする理由は音楽の柔軟性を利用することで、個人でも集団でも、CLOSEDでもOPENでも、能動的でも受動的でも、身体と五感を使ったあくまで本人主体のあらゆる参加方法が可能になるからです。
- MLAP の特性を生かし、人とのふれあいを楽しみながら、本人の障がいニーズに合わせたコミュニケーション力を音楽経験によっていつの間にか学習することができます。
- MLAP は、よく訓練された MLAPPERS（ムラッパーズ）によって展開されます。

例えば。。。



<MLAPのパンフレットより>

MLAPのプログラム

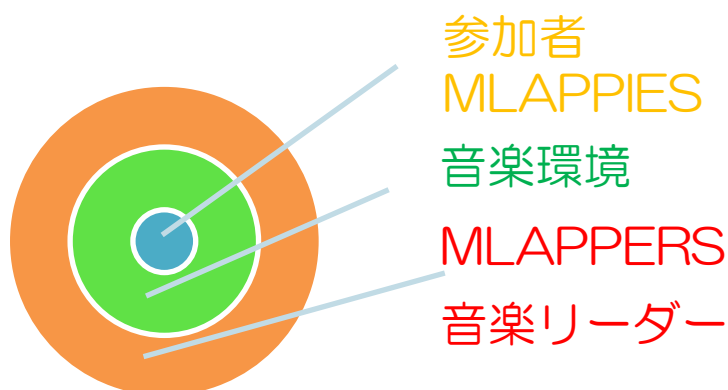


超参加型音楽活動 MLAP で実施している活動内容は、主に

- 歌唱、声の活動
- 楽器活動
- 身体を使った活動
- 鑑賞

この4つで、対象者や、実施時間、場所などに合わせて、単独で実施したり、組み合わせたプログラムを計画し、実施しています。

<MLAPの構造>



♪MLAP の活動の中心にあるのは、MLAPPIRS（参加者）です。MLAPPIRS が安心して超参加できる音楽環境を整えるのがMLAPPERS（音楽リーダー）で、このプロジェクトにおいては、音楽療法士がその役割を担いました。

MLAPの動画への取り組み

人と繋がる、人と人との距離を縮めるために、むしろ「密」を奨励していた MLAP の活動は「3つの密」を避けなければならないコロナ禍の状況では、ほぼ実施ができなかったことから、2020年度は MLAP の動画を作成して配信しました。いかなる環境の変化においても、フォームを変えながら MLAP を実施していける理由のひとつとしては、柔軟性という特徴がある「音楽」をセンターに置いている活動であるから、といえます。

この動画の配信は、「リアル」にこだわっていた超参加型音楽活動 MLAP の広がり阻止するものでは決してなくて、むしろ、MLAP のパラダイムに近づくための視点の広がりであると捉えました。



オーシャンゼリゼ

<https://youtu.be/uzWhHp9Gf4o>



たいこづくり

https://youtu.be/wa_gAYDOzuU



【手話ソング】糸

<https://youtu.be/7lvWApUWVY>



ぼちぼちいこか

<https://youtu.be/sxgRaMz75cM>



【手話ソング】花は咲く

<https://youtu.be/LjiEEjUCXml>



楽器なしでも楽しめる【拍手回し】

<https://youtu.be/7yORZzoifKs>



手話ソング【ハピネス】

<https://youtu.be/Tm3PIEJztwE>



手話ソング【ありがとうの花】

<https://youtu.be/QRXu9M1O-R0>

他にも動画をアップ中です。是非、手をつなぐ育成会保護者会の

ホームページをお尋ねください♪ <https://fiku.jp/hogoshakai/news2.php>

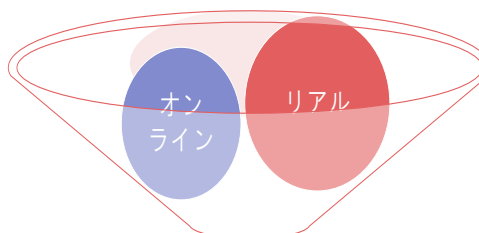


多様な MLAP の活用方法



生涯学習として、余暇活動として、職場やスタッフ、また地域社会のコミュニティの活性化に、対象者を問わずに、MLAPの超参加型音楽イベントは活用できると考えています。リアル MLAP では、MLAPPERS が出向く事も可能ですし、

MLAPPERS が主催の超参加型音楽イベントを実施する事も可能です。加えて、動画というオプションを手に入れた MLAP は、いつでもどこでも誰とでも、そこが MLAP の「場」になります。



MLAPの動画分析

山本 恭大

西日本短期大学社会福祉学科講師

MLAP オンライン事業



MLAP 公式チャンネルの公開

※公式チャンネルのロゴ

<<概要>>

コロナ禍で施設に訪問することが難しくなった MLAP ですが、過去に訪問した施設の人と、どうにかつながりを維持できないかと模索し、動画を作成しました。現場で息遣いや表情を大切に
する MLAP としては動画で同じことを再現するのは難しい面が多くありましたが、動画を活用すると
普段会場に来られない方にも MLAP を届けることができるという気づきがありました。

<<言葉の説明>>

限定公開：検索サイトの対象とならない動画。URL を直接入力した場合にのみ表示されます。

一般公開：検索サイトの対象となる動画。視聴制限をかけない為、誰でも見ることができます。

<<公開動画内容>>

<概要> (1) は初めて上げた動画 (2) は身体活動の動画 (3) は手話の動画 (4) は鑑賞
(リアルでは共に演奏) の動画です。それぞれのジャンルで最も再生されている動画を分析する
ことで、MLAP オンラインの需要を分析します。

(1) 「MLAP! はじまるよ!」(3分1秒)

公開形式：限定公開

URL 公開手段：コロナ禍以前に訪問していた施設の利用者へのメール

内容：冒頭に音楽療法士が「覚えていますか?」と語りかけ、MLAP のおさらいから始めた。自己
紹介ソングとして「ハローソング」を演奏して、1 施設を対象とした動画のため再生回数は少
ないが、最初から最後まで視聴され施設からの評価も高かった。

リンク先：<https://www.youtube.com/watch?v=Kr9TUvdlna8>

<分析> 視聴数が少ない (7 回) ため動画分析はありません。



(2)「みんなで オーシャンゼリゼ！」(9分5秒)

公開形式：限定公開(2月13日より一般公開)

URL 公開手段：2021 年度報告会チラシ・福岡市ウェブサイト・施設への紹介メール

内容：オーシャンゼリゼの音楽に合わせて身体活動を行う。9分5秒の中で演奏のテンポを替えて、繰り返し身体活動を行っている。

リンク先：<https://www.youtube.com/watch?v=uzWhHp9Gf4o>

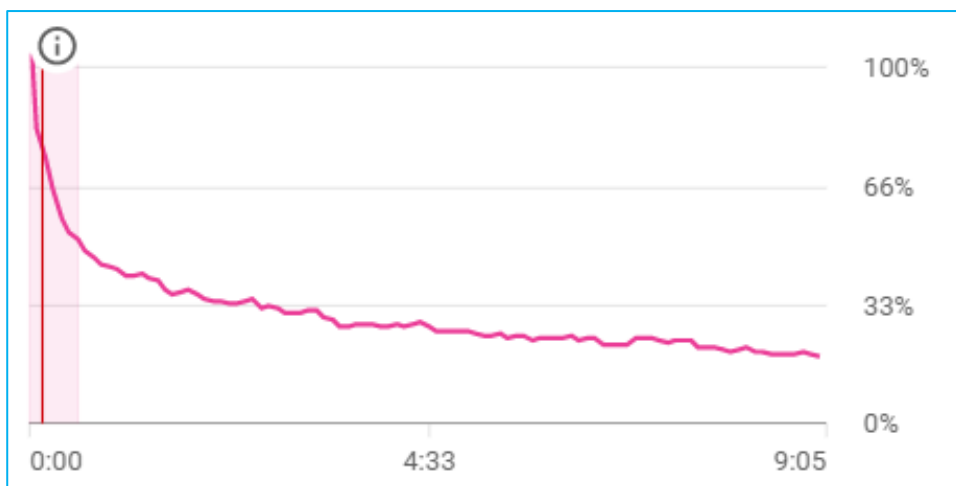


<分析>

見始めた人の17%が最後まで視聴しています。

動画を施設へメールを送付し、施設で自由に使っていたいただいた結果、2月は特定の曜日に再生回数の山がありました。

これは、今回の報告会での「施設の余暇時間の音楽活動で使用されている」という報告と一致します。(余暇活動は曜日ごとに活動内容が決まっていることが多い)



(3)「手話【ありがとうの花】」(5分48秒)

公開形式：限定公開

URL 公開手段：2021 年度報告会チラシ・福岡市ウェブサイト・施設への紹介メール

内容：クリスマスイベントが中止になったため実施予定だった内容を公開した動画。手話ジャンルの中でも、人気があった。

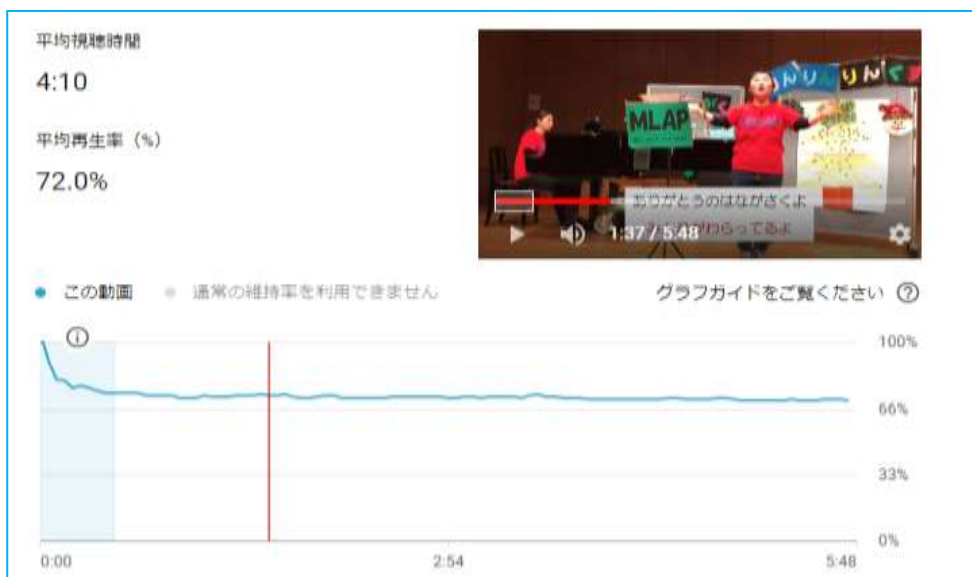
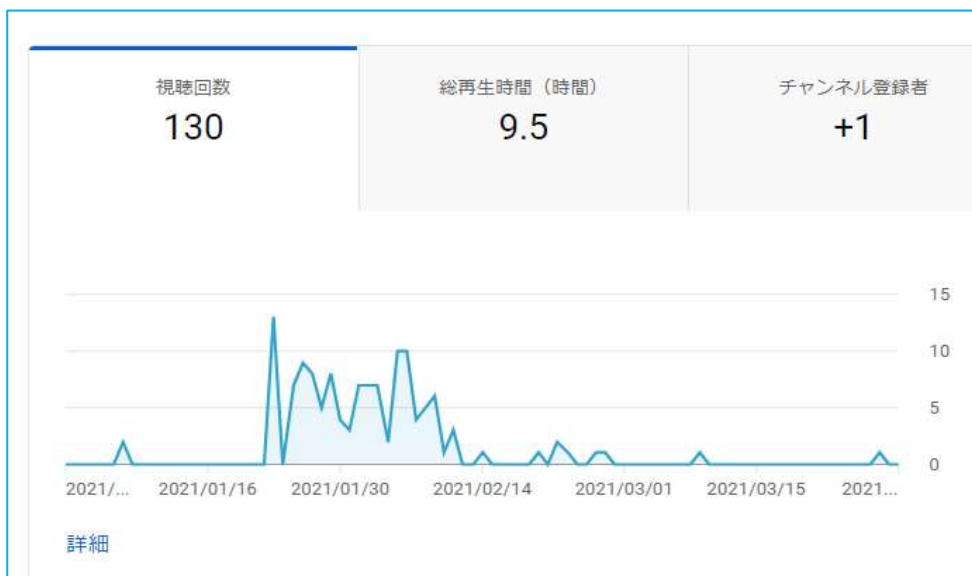
リンク先：<https://youtu.be/QRXu9M1O-RO>



<分析>

再生回数が集中する公開後 3 ヶ月で曜日による特徴的な差異はありませんでした。

この動画に関しては最初から最後まで視聴維持率が 70%を超えるという他の手話とも違う特徴がありました。これは、編集時に手話の該当部分の字幕を赤くするという工夫をしたことで、手話修得を目指す人が繰り返し最初から最後まで何度も視聴して練習したためではないかと考えました。習得の目標を達成した後は閲覧をやめたと考えられます。手話の練習動画としての活用方法もあるというのは、あらたな気づきでした。



(4) 「ぼちぼちいこか」(17分31秒)

公開形式：限定公開

URL 公開手段：2021 年度報告会チラシ・福岡市ウェブサイト・施設への紹介メール

内容：楽器の紹介をしながら、色々な音を楽しむコンテンツ。絵本に合わせて一緒に音を鳴らしていくため、リアルでの参加者の満足度は非常に高い。

リンク先：<https://www.youtube.com/watch?v=sxgRaMz75cM>



<分析>

17分を超える長い作品だが、視聴者は3分を超えると最後まで見続けています。

保護者より「絵本を見ながらボチボチ行こうと言っていた動画がお気に入りです」という声もあった。リアルで参加した利用者が動画を見ながら以前の活動を思い出しているという嬉しい報告もありました。



<<今後の課題>>

MLAP の予習に使えると喜ばれるなど想定していなかった使い方に動画の可能性を感じています。今後は動画の視聴分析を行い、適切な内容や長さなどを検討していきたいと思います。

4年間学校卒業後における障害者の学びの支援に関する 実践研究事業に取り組んで

下山 いわ子

* 感謝 *

4年間、本実践研究に取り組みました。4年間と言えば今、まさに冬季オリンピックの真最中で、「4年間の努力」という言葉を何度も耳にします。

もちろん、オリンピックの人たちと同じように語ることにははばかりられますが、4年間、多くの方たちにかかわってもらって「超参加型体験型音楽活動 MLAP」に取り組むことができた感謝の気持ちは、オリンピックの人たちと同じような感謝の気持ちでいっぱいです。

任意の団体である、研究というには素人の集まりの“保護者会”である当会が、おそれおおくも文部科学省の実践研究に4年間も取り組むことができたのは、多くの方の協力があったからです。

♡音楽療法士である MLAP コーディネーターの**米倉裕子先生**の深く広い知見や経験から MLAP の意義を示していただき、プログラムを作成してくださいました。障がいのある・なし、障がいの種別、音楽経験のある・なし、年齢、性別、国籍に関係なく、その人その人の参加の仕方が否定されることがなく尊重される、そんな活動の中で、コミュニケーション力（ことばに限りません）・自律性・自立性・社会性が、その人その人のスピードで、楽しみながら自然に学ぶことができるプログラムです。米倉先生と当会とのかわりかは20年以上になり、信頼できる方でしたので、自信をもって取り組むことができました。

♡米倉先生を先頭に実践を担当してくださった**博多音楽療法コミュニティ LINKS メンバー**のみなさんが、何度も話し合いながら、当日環境が変化しても MLAP の意義にそった居心地の良い会場にしてくださいました。居心地の良い実践だったからこそ、たくさんの笑顔や感動が生まれて、次の機会を得ることができました。リアルに集合できないときにも MLAP を体験できる動画や、楽しむだけでなく、学校や事業所でも実践できるように MLAP 解説動画も作成してくださいました。障がいのある本人がボランティアを希望した時には、受け入れて、ボランティアとして役割を果たせるよう支援してくださいました。

♡**連携協議会委員、実行委員会委員**に多様な専門家にかかわっていただき、限られた時間の中で MLAP の意義や目的が実現するように課題や展望について、貴重な意見や提案をたくさんいただきました。効果的な連携先となり得る青年学級や学校での活用、公民館での活用につないでくださいました。オンライン配信専任の委員のおかげで、さまざまなオンライン配信に取り組むことができました。

♡**ボランティア**の方は障がいのある人とかかわった経験がない方がほとんどでした。「自分が楽しんでね」と最初に伝えると、不安を感じていることも正直に話してくれました。それが段々と「担当の方が楽しんでいる姿がうれしい」「自分も楽しい」「次も参加したいです」という言葉に変わりました。

た。ボランティアの方のおかげで、保護者ご自身も楽しむ時間を過ごすことができました。

♡**福岡市市民局コミュニティ推進部生涯学習課**には、実務作業についての助言や広報に大きくご協力いただきました。福岡市の「ホームページ」や「まなびアイふくおか」への掲載、公民館や行政関係部署への周知を担っていただき、周知度が断然、上がりました。

♡**文部科学省**の担当の方には、書類作成もままならないところ、丁寧にご指導いただきました。文部科学省の実践研究として採択されたからこそ、連携協議会を立ち上げ、予算を含めて本格的に実施研究を手掛けることができました。「エビデンスを示す」ということは、保護者の会では、「エビデンスって何？」から始まり、とても難しかったのですが、4年間取り組む中で、「エビデンス」を基にした計画、活動の必要を体感しました。「文部科学省の実践研究」という看板がなければ、ここまで多様な方々とは連携できませんでした。実は、MLAPの構想は、米倉先生と公募する前から話していたことでしたが、実際に取り組むことができたのも実践研究として採択されたからです。そして、来福の折には生涯学習課長へ、報告会の際には視聴者へ、MLAP活動を後押しするご発言をいただきました。

♡**場所を提供してくださったみなさん**。MLAPといっても、なかなか言葉で伝えられない4年前から、快く、場所を提供していただいたり、コロナ禍の隙間で提供してくださったりがありました。場所がなければ実践ができません。本当に有難かったです。

♡**参加してくださったみなさん**。みなさんがいてくださったから実践研究となり、気づきをたくさんいただきました。そして、みなさんの姿に元気をもらいました。

* MLAPをとおして うれしかったこと *

♡**障がいのある参加者**の笑顔。部屋の入り口で聞いている様子。最初すみっこにいた方が段々輪の方へご自身から近づいてこられる様子。輪の中心で思いっきり自分自身を表現されている姿。重度心身障がいのある方が身体の外観からは感じていることがわからなかったけれど体内で感じていることを知った時。聴覚障がい、視覚障がい等関係なく楽しんでいて、MLAPの活動を待っていていること。「今日は、一人で来たよ」や「ボランティアをしたい」と伝えてくれたこと。

♡**保護者**の方が、最初は「みんなと一緒にできるように」という気持ちが強かったのが、段々とその子の参加の仕方で OK、みんなと一緒にではないその子その子の表現を受けとめて楽になっていく様子。「迷惑をかけている」という気持ちが薄れて、「こんなに気がねなく参加できた催しは初めて」とご自身が楽しんでいる様子。「リラックスしすぎて寝すぎちゃった」という笑顔。

♡**地域の方**が最初は障がいのある人と一緒にいることが気になっている様子が、段々とご自身がのりのりに楽しんでいる姿。

♡**ボランティア**の方が、最初は固い表情でどうしたら良いのかわからない様子が、回数を重ねると自分から近づいたり、全てに声をかけるのではなく障がいのある本人の様子を“見守る”姿だったり、自分自身が楽しんでいる様子。

♡**連携協議会委員、実行委員**のみなさんにご縁ができたこと。引き続き、このご縁を引き続き活かし

た活動を、と考えることができること。

♡**場所を提供してくださったみなさん**。MLAPの意義などご理解いただき、快くMLAPを受け入れてくださり、継続してご協力いただけること。

♡**なんだか、とっても元気になります。**

* 課題 *

◆周知力が不足していることや、参加者のニーズである「身近な場所で、気軽に、生涯をとおして参加できるMLAP」の実践にするために、福岡市の地域生活の拠点である公民館での実践を計画していましたが、コロナ感染拡大のため会場を使用できずに実践が伴っていません。福岡市生涯学習課から市内公民館や関係部署への一斉周知や福岡市のホームページ等掲載のご協力で周知度は上がりました。来年度以降の活動のための種まきをできる限り行ったと思っています。

◆人材育成という面でも、実践がなく、計画通りに進めることができませんでした。

* 展望 *

◆MLAPは、だれもが楽しく、自然とコミュニケーションをとってしまうプログラムなので、多様な人たちが一緒に参加できるプログラムとして、生涯学習の視点での人権研修にも、余暇活動にも、さまざまな場面で活用を見込むことができます。

◆今年度、福岡市生涯学習課のご協力で、福岡市の地域拠点となっている公民館（福岡市では各小学校区に公民館が設置されている）との連携がとれるようになりました。来年度はリアル開催が各地区の暮らしの拠点である公民館で実践が可能になれば、どこにいても、だれでも参加しやすくなり、切れ目のない持続可能な実践として、また、障がいのある方と地域の方やボランティアの方とも自然に知り合う機会となり、地域共生社会へと寄与できることが見込まれます。

◆学校や事業所での実践を検討されることになったので、学齢期と成人期の切れ目のない生涯学習の場となり、学卒後にも地域に居心地の良い居場所になることが見込まれます。

◆MLAPは、あらゆる人に生涯音楽活動ですが、アート活動、運動活動、など、さまざまな活動のモデルにもなり得ると見込んでいます。

* 実践研究に取り組んできた4年間の成果を引き続き活かせるように *

障がいのある人やその家族に「ひとりで悩まないで。仲間がいますよ」というメッセージを届けながら、障がいのある人もその家族も、障がいのない人も、みんなが自分自身とお互いを尊重し合える社会の実現を願って、これからもMLAPの活動を続けます。

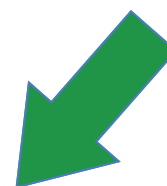
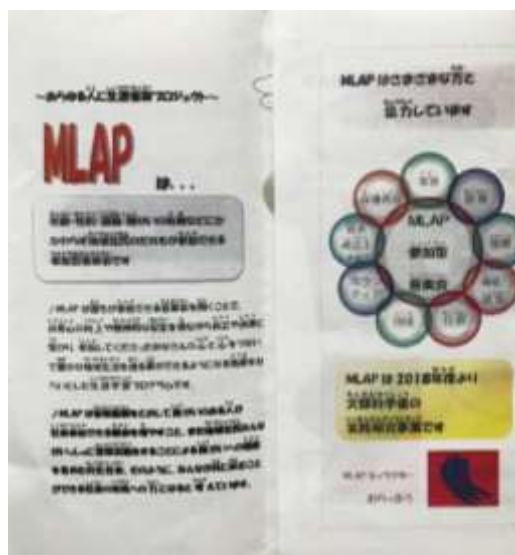
だれもが 身近な場所で 身近な人たちと 気軽に 居心地良く 参加できるように、

もっとももっとも !! (^ ^)! どこかで、お会いしましょう~♪

むらっぷう!! \(\tilde{o}\)/



MLAPのパンフレット



♪ 作成にあたりまして、くらしき作陽大学音楽療法専修の卒業生たちにご協力いただきました♪

MLAP (ムラップ) Music with Life for All Project

あらゆる人に生涯音楽プロジェクト

オンライン 実践報告会

-お互いを尊重し合える共生社会を願ってMLAPが かけはしに！-

MLAP(ムラップ)
Music with Life for All Project
あらゆる人に生涯音楽プロジェクト
実践報告会

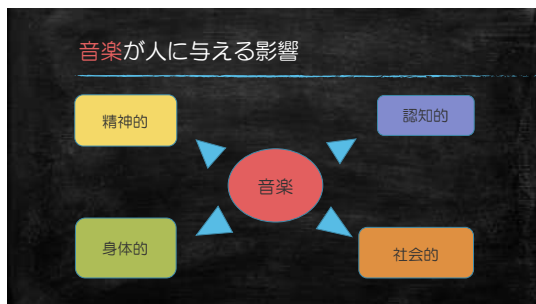
お互いを尊重し合える共生社会を願って
MLAPが かけはしに！

文部科学省
「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進実践研究事業」委託事業
2022/2/13 オンライン配信
MLAPコーディネータ/米倉 裕子



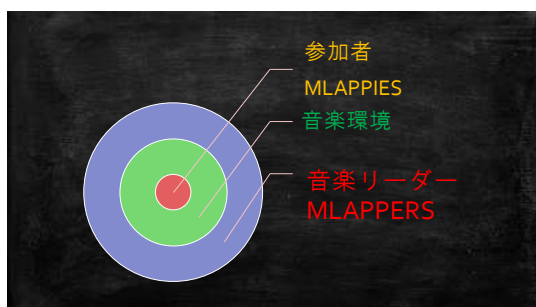
M L A P

む → むりなく
ら → 楽に・たのしく
つ → つづけられる
ぷ → ぷろぐらむ



療法的音楽活動を取り入れたMLAPの特徴

- 参加者の自由意志に基づいている
- 楽譜、字、言葉の有無は関係ない
- 管理的、指示的ではほとんどない
- 達成の状況や他人との比較で評価しない



MLAPが利用している音楽活動の特徴

- 個人でも集団でも実施可能
- 能動的活動でも受動的活動でも実施が可能
- CLOSEDでもOPENでも実施が可能
- 参加者のニーズに合わせた活動内容や選曲が可能

MLAPの生涯学習としての意義

- MLAPは参加型音楽会を通して、自尊心の向上や精神的な安定を得ながら自立や自律に繋がり、豊かな地域生活を送ることができるようになる効果をねらいとした生涯学習プログラムです。
- 障がいのある人が社会参加する機会が増えること、地域住民とともに活動することで障がいの理解が進み、共生社会の実現にも寄与すると考えます。

MLAPに参加することで見込める成果

障がいとともにある人の
気持ちと行動の変化



障がいがない人の
気持ちと行動の変化

MLAPの願い

障がいのあるなしにかかわらず
みんなが
自分自身とお互いを
尊重しあえる社会

MLAPの願いFOREVER

- 参加型の音楽活動に参加することは、障がいのある人も障がいのない人も楽しみながら生涯学び、自立（自律）し、豊かな心を育み、みんなが自分自身とお互いを尊重し合う、共生社会につながると思っています

わらっぶう♪
です！
これからも
よろしくね！



Music with Life for All Project
あらゆる人に生涯音楽プロジェクト
MLAP



<はじめに>

みなさん、こんにちは。あらゆる人に生涯音楽プロジェクト MLAP のコーディネーターの音楽療法士、米倉裕子です。

まずは、この4年間、文部科学省による「学校卒業後における障がい者の学びの支援に関する実践研究事業」、更には「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進 実践研究事業」の委託事業のプロジェクトが続けられた事への感謝の気持ちを、文部科学省の関係者の皆様、福岡市手をつなぐ育成会保護者会関係者の皆様、特に下山いわ子会長、MLAP 連携協議会の委員の皆様、MLAP 実行委員会の委員の皆様、博多音楽療法コミュニティ LINKS の皆様、MLAP の活動に参加くださった皆様、ボランティアメンバーの皆様、他、MLAP の活動を支えてくださったすべての皆様に心よりお礼を申し上げたいと思います。

皆様の温かいサポートに支えられて、この度、4 回目の報告会で報告させていただける事になりました。このような素晴らしい機会をいただきましたことに、心より感謝を申し上げます。

それでは、私が4年間コーディネーターをさせていただいております MLAP の活動につきまして、福岡市手をつなぐ育成会保護者会からの報告、「MLAP あらゆる人に生涯音楽プロジェクト、実践報告会、お互いを尊重し合える共生社会を願って MLAP がかけはしに！」を始めさせていただきます。どうぞ、よろしく願いいたします。

<MLAP とは>

まず、MLAP とは、Music with Life for All Project の頭文字で、わたしたちが実施しております超参加型音楽活動を、多くの人に親しみを持ってもらおうと名付けたあだ名のようなものです。「Music with Life for All Project なんて、難しいわ」、とおっしゃる皆さまのためには、このような覚え方もあります。

それは、

むりなく

らくに、たのしく

つづけられる

プログラム

で、むらっぴです。

MLAP が初めて聞く言葉だという皆さまには、今日は是非「むらっぴ」を覚えて帰っていただきたいと思っています。わたしたちは、MLAP の活動では、いつも挨拶代わりに「むらっぴう！」と言っています。通常であれば、会場のみなさまと一緒に「むらっぴう！」コールをするのですが、今日はみなさんが、モニターの前で一緒に言ってくださると信じまして、コールしてみたいと思います。せーの「むらっぴう！」。ありがとうございます！

この4年間、MLAP の活動を続けてこられたのも、MLAP の活動そのものが、そもそも「むりなく」、「らくに、たのしく」、「つづけられる」、「プログラム」たるゆえんであると思っています。この4年間、MLAP の活動を通して、本当に素晴らしい人々と出会い、また素晴らしい笑顔に感動し、励まされた4年間でした。

それでは、なぜ MLAP は、「むりなく」、「らくに、たのしく」、「つづけられる」、「プログラム」なのでしょう？

<MLAP はなぜ「音楽」なのか>

それは、ズバリ、「音楽」をセンターに据えたプログラムだからといえます。

この地球上に人類が現れた、その頃から「音楽」は人間と共に存在しているという文章を読んだことがあります。音楽は、人間の「認知機能」を育み、「感動」を与え、「身体動作」を統制し、また、人々を音楽の在る場所に「集わせます」。音楽の持つ、人間への影響力は、とてもパワフルで、わたしたちは、日々の生

活の中で、意識的に、もしくは無意識に音楽による刺激を取り入れながら、暮らしていると考えられています。

例えば、「音楽」は、我々が意識しない自分自身の生理的な部分、体温、血圧、などを一人一人の最適な状態に維持しようとする「ホメオスタシス」にも「寄与している事がわかっています。また、「音楽」は、我々の「自発性」を誘発します。音楽に触れると、人は自発的に「何かをしたくなる」のです。私はこの「音楽による自発性の誘発」こそが、MLAP が「むりなく」、「らくに、たのしく」、「つづけられる」、「プログラム」ゆえんであり、肝であり、それが、MLAP を「生涯学習プログラム」に落とし込める核（コア）であると考えてます。

<「音楽」の特徴を存分に利用している MLAP の活動>

「音楽は自発性を誘発するきっかけとなりそれらすべてについて受容する」ということがいえるというお話をさせていただきましたが、多種多様に存在する音楽療法のスタイルの中で、私が超参加型音楽活動 MLAP の活動の中で大切にしている特徴としては、

- ・参加者の自由意志に基づいている
- ・楽譜、字、言葉の有無は関係ない
- ・管理的、指示的ではほとんどない
- ・達成の状況や他人との比較で評価しない、

という事が挙げられます。

私が MLAP の活動を考える時にいつも思い出すのは、私がアメリカの大学院で音楽療法を学んでいた時に読んだ書物の中にあったイギリスのことわざで、**馬を水辺に連れて行くことはできても、水を飲ませることはできない**というものです。馬が水を飲むかどうかは馬次第なので、人は他人に対して機会を与えることはできるが、それを実行するかどうかは本人の気持ち次第であるという意味です。人間も同様に、成果を出すには何でも無理強いするのではなく、本人のモチベーションを上げてやる気を出させる事が大事だと理解しています。

このようなセラピューティックなコンセプトをベースに計画、実施された、いつの間にか、自然に参加してしまっていた、「させられた感」がない音楽活動は、参加者の安心感、解放感、それによる満足感、達成感を得やすくなり、快の経験として記憶されると考えています。

<MLAP が利用している音楽活動の特徴>

もう一つ、MLAP の活動で音楽をセンターに据える理由として、「音楽は対象者を選ばない」、ということが言えます。

例えば、MLAP の活動では、ひとりで声を出したいときにその人の好きなタイミングで声を出しても全

然 OK ですし、また、参加者全員で「せーの」で一緒に声を出しても OK、みんなが身体を動かしているときに、一緒に動いても OK だし、違う動きでも OK。わいわいとグループ活動をしている様子を、ドアの影からそっと見ている、それだって「その方の居心地の良い参加の仕方であれば、OK」なのです。

また、機能的に身体が自由がきかない方で、一見音楽に何も反応していないように見受けられたとしても、その方の心の中では、物凄い何か動いているかもしれない、これこそが、「超参加型音楽活動」の「超」たるゆえんでもあり、その人なりに、「わたくし、超参加していますけど、何か」という事で OK なのです。これを言い換えると、「いいねえ、君むらっぷう」だね！」ということになります。

MLAP の活動実施中においては、参加者を活動に誘うことや選択肢を提示することはあるけれども、決して支持を出すわけではなく、「同じ空間にいる、その場にただ居て、一緒に時間を過ごすこと」、を大切にされていて、そのことが、お互いの存在を尊重しあう空間の「場」を創造しています。

この「場」はとても居心地が良くて、そしてその環境を造っているセンターにあるのは、「音楽」なのでそれを可能にする音楽の特徴としては、・個人でも集団で実施も可能であること、・能動的活動でも受動的活動でも実施が可能であること、・CLOSED でも OPEN でも実施が可能であること、これは、限定された対象者かどなたでも、という意味や、閉鎖された空間か、例えば出入りが自由な解放された空間の対比の事を示しています。最後に・参加者のニーズに合わせた活動内容や選曲が可能であること、以上の4つが挙げられます。

この様な、そもそもノンバーバルコミュニケーションのツールである「音楽」の柔軟性を利用することで、参加者のダイバーシティにも対応可能な、楽しみながら人と人がつながる活動が可能になり、それが → 超参加型音楽活動 MLAP のベースになっていると考えています。「ままがいいままでいい」。と、むらっぷキャラクターのむらっぷうも言っています。

<MLAP の活動プログラム>

このような超参加型音楽活動 MLAP は、持続可能な生涯学習プログラムとして、

- ・歌唱、声の活動
- ・楽器活動
- ・身体を使った活動
- ・鑑賞

この4つの活動を対象者や、実施時間、場所などに合わせて、単独で実施したり、組み合わせたりしたプログラムを計画し、実施しています。

<MLAP の構造>

そのような、つい、参加してしまった、また参加したくなる様なきっかけが散りばめられている超参加型音楽活動を実施するためには、参加者をとりまく音楽環境を、専門的に且つ、さりげなく、そしてインスタントに即興的に操作できる介入スキルを持った、「音楽リーダー」としての専門家の存在が不可欠であると考えています。MLAP のプロジェクトでは、その役割の人たちのことを、「MLAPPERS」と呼んでいて、よく訓練された音楽療法士が担っています。また、参加者のことは、「MLAPPIES」と呼ばせていただいでいて、活動内容によっては、MLAPPIES がリーダーになってプログラムを進めていく事もあります。

<MLAP の生涯学習としての意義>

さて、ここで、超参加型音楽活動 MLAP の生涯学習としての意義について改めて述べさせていただきますと思います。

MLAP では、このような楽しいという感情の中で起こる成功体験を経験することで、障がいとともにある人たちの自尊心の向上や精神的な安定を得ながら、豊かな地域生活を送る事に寄与できるのではないかと、また、障がいとともにある人が社会参加をする機会を提供することで、地域住民の方たちの障がい理解を促すことになり、共生社会のコミュニティ構築をサポートできるのではないかと考えています。

IPS 細胞の研究でノーベル賞を受賞した、山中しんや先生の「学習とは何か」という言葉の中に、「学習とは人と出会う事」とありました。MLAP は、音楽活動を楽しみながらいつの間にか人と出会うことを可能にする、つまり、MLAP は、参加したメンバーが音楽を学ぶのではなく、音楽を通して人と人との係わり方を学習することを可能にする継続可能な生涯学習プログラムになりうると考えています。

従って、地域住民の誰でもが、それぞれのスタイルで超参加型音楽活動 MLAP に参加することで見込める成果としては、・障がいとともにある人の気持ちと行動の変化、と・障がいがない人の気持ちと行動の変化、この双方からの成果を見据えています。

お互いが、同じ立ち位置に立って、同じレベルで「学び合う」、MLAP の環境は、それを可能にするのです。

<MLAP の願い>

このような特徴を持った音楽をインターフェイスにして、MLAP が実現したいことは、<障がいのあるなしにかかわらず、みんなが自分自身とお互いを尊重しあえる社会>です。

障がいのあるなしにかかわらず、また年齢、人種や性別問わずにコミュニティの中でみんなが共生する日々の生活の実現を、あらゆる人が様々な角度で模索していて、そしてそこには、多くの課題や難しさがあるという現実も知りつつ、今回、私たちは、この分け隔てをしない音楽を中核において、共生社会の実現に寄与できる何かをしたい、わたしたちのできる音楽でやってみようと考えたのがあらゆる人に生涯音楽プロ

ジェクト、MLAP なのです。

<MLAP の活用>

障がい学習として、余暇活動として、職場やスタッフ、また地域社会のコミュニティーの活性化に対象者を問わずに、MLAP の超参加型音楽イベントは活用できると考えています。MLAPPERS が、出向く事も可能ですし、MLAPPERS が主催の超参加型音楽イベントを実施する事も可能です。今年度からは、福岡市生涯学習課のサポートもいただきまして、福岡市内にあります公民館で随時実施していく予定です。また、家から出られない、人に会う機会が減った事で、運動不足の利用者の方などには、在宅環境で、動画をみながら楽しみながら一緒に身体を動かしたり、音楽活動を楽しんだり、という利用の仕方でも可能です。様々な理由で、移動が難しい方にも、MLAP の動画は、きっと地域社会とつながる窓口となり、それまでの阻害感を払拭し、自分も地域社会のメンバーの一員であるという所属感を満たす活動としても優れたツールであると感じています。

先日、今年は1度も実施されなかったグループ音楽遊びにずっと参加して下さっていたメンバーの保護者の方が、家の中で MLAP の動画をみながら楽しそうに身体を動かしているメンバーの方の写真を送ってきて下さって、本当に感動しましたし、とても嬉しく感じましたし、いつか MLAP で再会したときの為の準備の MLAP エネルギー注入を MLAPPIES それぞれが、それぞれのペースで着々とやっけていって下さっている、という手応えを動画 MLAP 配信プログラムから感じました。どこであってもそこが MLAP の場になるのが、使い勝手のよいモバイル動画 MLAP の良さでもありますと実感しました。

<MLAP の課題>

最後に、MLAP パラダイムを達成するための、今後の課題として、この4年間で培った新しい連携を大切にしながらお互いを尊重し合える共生社会を願って、リアルとオンライン、デュアルな MLAP の活動の実施によって、「MLAP に行こう」「MLAP したい」「MLAP いいよね」といった、MLAP に関わりたくなる、MLAP と関わる事が嬉しくなるし、関わっていかなくなる、そんな MLAP ブランドを身近な地域社会に広めていきたいと考えています。

MLAP がかけはしになって、「一人じゃない」「いつも誰かがみている」そんな孤独を感じない、安心できる、住んでみたくなるようなコミュニティーが構築できたらいいなあ、と考えています。

<MLAP の野望>

また、私がこの4年間、MLAP の活動に携わりながら、思い出したのは、「グロップンプロジェクト」です。1980年代にノルウェーの行政がに音楽療法を地域の中に根付かせていこうという計画がもちあがり、

そのモデル地区に選ばれたのが、グロッペン市だったという「グロッペンプロジェクト」です。

グロッペン市では、1982年から3名の音楽療法士が中心となって、医療や福祉に携わる人々とプロジェクトを組み、音楽療法を通して、障がいと共にある人と障がいのない市民が共に触れ合う街づくりが進められているというもので、特に特殊教育や高齢者対策の中で効果が発揮されているとされています。

グロッペン市をモデルとして、わたしたちの生活の中に well-being の一助となる音楽活動が手軽に存在する、そんなコミュニティデザインの構築の一助に MLAP がなれたらという野望が頭から離れません。

<おわりに>

今回のこの MLAP のプロジェクトには、信じられないほど沢山の方々が関わってくださっていて、そのひとりひとりのおかげで、このプロジェクトが3年目を迎える事ができたと心から感じています。この MLAP のエネルギーを是非これからも、可能な限り繋げていくことができれば、と心より願っています。

以上、

MLAP コーディネーターの米倉裕子でした。

ご清聴、ありがとうございました。

<参考文献>

丸山忠璋（2002）：療法的音楽活動のすすめ-明日の教育と福祉のために-春秋社

音楽療法入門-理論と実践- 上下 デイビス、グフェラ、タウト（栗林文雄訳）-麦出版

実践例に基づく障害児保育-ちょっと気になる子へのかかわり-：（共著）編者：七木田敦（「音楽療法（トピック1）」（pp34）米倉裕子担当）2007、保育出版社

キーワードで学ぶ障害児保育入門：（共著）編者：七木田敦（「知的障害」の章「指導の方法」、及び「園での環境づくり」（pp98-103）米倉裕子担当）2008、保育出版社

臨床が変わる！イラストでわかる目からウロコの音楽活動：（共著）編者：田中順子（「音楽で育つ-障がい児と音楽あそび-」（pp57-80）、及び「生きるよこびー緩和ケアと音楽活動-」（pp109-121）米倉裕子担当）2014、三輪書店

新しい音楽療法～医療現場からの提案～：（共著）：（「高齢者への音楽療法」（pp153～178）米倉裕子担当）2001、音楽之友社





超参加型音楽イベント MLAP

2018 ~ 2021





年齢、国籍、性別、障がいとともにある人も
ない人も、みんなが自分自身とお互いを尊重
し合って、、楽しかったね♪ありがとう♪



超参加型音楽イベント実践報告

コミュニティ対象

高齢者学級・人権研修にて実施

日時：2021年 12月 22日（水） 午前中 2回 実施

場所：福岡市 博多区 三筑公民館

参加者：高齢者学級・人権研修参加者 約42名

MLAPPERS：博多音楽療法コミュニティ LINKS 3名

<<概要>>

福岡市博多区三筑公民館で定例会として実施されている高齢者学級・人権研修の時間をお借りして、研修生の方を対象に超参加型音楽イベントMLAPを実施させていただきました。本来の計画であれば、地域の障がい者施設の方と一緒に実施する予定が、感染症拡大予防という理由で今回は高齢者学級・人権研修参加者のみを対象とした活動の実施となりました。

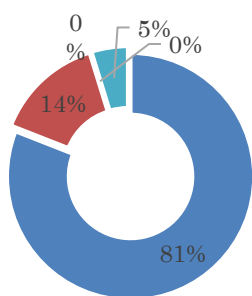
<<プログラム内容>>

超参加型音楽イベントMLAPのファシリテーターとして3名のMLAPPERSを中心にして、新型コロナウイルス感染症防止を鑑みて歌唱活動は避け、十分な距離を保ちながら楽しめる身体接触をしない身体活動、楽器活動、鑑賞活動などのプログラムを60分程、同じ内容のものを2回実施しました。



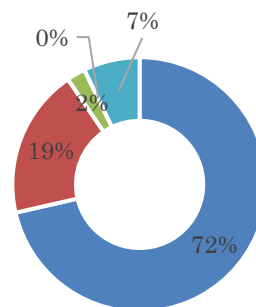
<<アンケート調査結果>>

楽しかったですか



- とても楽しかった
- やや楽しかった
- やや楽しくなかった
- 楽しくなかった
- 未回答

また参加したいですか



- 参加したい
- やや参加したい
- あまり参加したくない
- 参加したくない
- 未回答

♪人権とどう結びつくかのお話がほしい

♪良かった

♪楽しかった。がんばって下さい。

♪このような会、又作っていただきたい。

♪ありがとうございました。

♪オカリナ良かったです。手話などがはいてよいです。

♪本当にありがとうございました。色々工夫をされ楽しませて頂きました

♪とても楽しかったです。

♪ありがとうございました。

♪又お願い致します。

♪初めての体験でした。今後の生活に加えたい

♪今回の楽器初めて手にしました。やわらかな音でとっても気持ち良かったです。

<<連携>>

福岡市生涯学習課との連携により、今後も福岡市内の公民館で実施していくという今後の連携のきっかけになりました。

親子で楽しむ音楽遊び♪

日時：2021 年11月 6日（土） 午後 2回 実施

場所：福岡市市民福祉プラザ 5階 軽運動室 （福岡市 中央区）

参加者：のべ22名

MLAPPERS：博多音楽療法コミュニティ LINKS 3名

<<概要>>

福岡市手をつなぐ育成会保護者会、幼児・学齢部会が、感染防止につとめながら午後に2回、対象者を入れ替えて実施しました。

<<プログラム内容>>

超参加型音楽イベント MLAP のファシリテーターとして3名のMLAPPERS を中心にして、新型コロナウイルス感染症防止を鑑みて歌唱活動は避け、十分な距離を保ちながら楽しめる身体接触をしないゲーム性の高い身体活動、楽器活動、鑑賞の活動などのプログラムを45分程度2回実施しました。

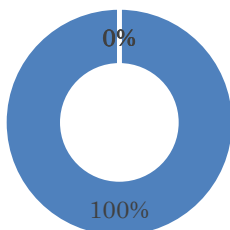


<<参加者の様子>>

今年初めての、リアル超参加型イベント MLAP でした。参加された方からは、「やっぱり実際に会ってする活動はいいね」という声が聞かれました。

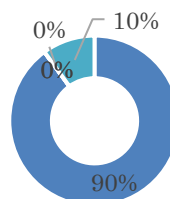
<<アンケート調査結果>>

楽しかったですか



- とても楽しかった
- やや楽しかった
- やや楽しくなかった
- 楽しくなかった
- 未回答

また参加したいですか



- 参加したい
- やや参加したい
- あまり参加したくない
- 参加したくない
- 未回答

♪また来たい

♪体全体でビートを感じられとても気持ちよかったです

♪何度も参加したことがあります、回を重ねる毎に子どもの成長を感じます

♪子どもははじめは恥ずかしがっていましたが、慣れてきて楽しかったと言っていたので参加させて良かったと思います

♪太鼓などで子どもとコミュニケーションを図る事はないのでいい経験となりました

♪子どもは元々音楽に合わせて体を動かすことが好きなのでノリノリで参加できました

♪ほぼ初対面の方ばかりでしたがとてもすばらしい進行で躊躇することなく引き込まれました

♪リズムに合わせて楽しくしていて良かったです

♪子どもの場所見知りも心配でしたがとても楽しかったです

<<連携>>

地元の団体との繋がりができ、今後の連携のきっかけになりました。

りんりんりんくすV

日時：2021年 12月 26日（日） 午後 2回 実施

場所：福岡市市民福祉プラザ 5階 音楽室 （福岡市 中央区）

参加者：51名

MLAPPERS：博多音楽療法コミュニティ LINKS 8名

<<概要>>

音楽療法士を中心とした勉強会である博多音楽療法コミュニティ LINKS の5回目の超参加型音楽イベント「りんりんりんくすV」として実施しました。MLAPのプロジェクトが開始した昨年よりも2年前に開始したイベントで、参加者全員が一緒に楽しむ経験を提供することを狙いとしています。年を重ねる毎に、イベントとして定着をしてきた印象を受けました。

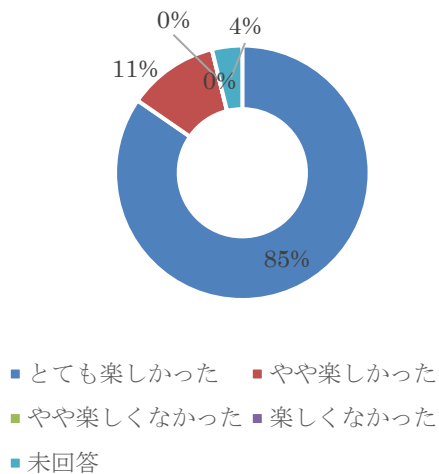
<<プログラム内容>>

超参加型音楽イベント MLAP のファシリテーターとして8名のMLAPPERSと1名のボランティアを中心にして、歌唱、身体活動、楽器活動、鑑賞、のプログラムを45分程度を2回実施しました

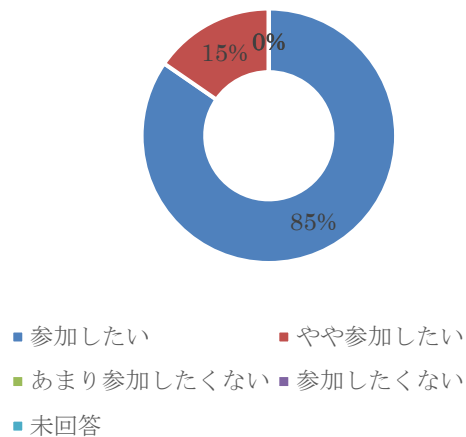


<<アンケート調査結果>>

楽しかったですか



また参加したいですか



- ♪リアル参加はやっぱりとても楽しいです。どうもありがとうございました。
- ♪息子がとても楽しんで歌やおどり、楽器を触っていて良かったです
- ♪自然と笑顔がたくさん出てリフレッシュできました
- ♪来れて良かったです
- ♪子どものためにと参加しましたが、私自身がとても楽しかったです。ありがとうございました。
- ♪久しぶりの音楽会楽しめました。内容もとてもバランス良くて良かったです。ありがとうございました。
- ♪初めて参加できて楽しかったです。
- ♪zoomでもしてほしい
- ♪また来たいです
- ♪MLAPへの参加は初めてでしたがとても楽しかったです！子どもも「もう1回！」と言っておりましたので、次回も必ず参加させていただきます！ありがとうございました！
- ♪楽しかったです！「もう終わり？」と言われていました

りんりんりんくすは、こどもから大人まで、近所の人や専門家の方、障がい、年齢、性別 問わず いろんな方に来て 楽しんでいただきたい音楽プログラムです♪



あらゆる人に生涯音楽プロジェクト
超参加型音楽イベント

りんりんりんくす **V**

歌♪楽器♪ダンス♪を楽しみながらクリスマスにみんなでツナガリマス

MLAPは、MUSIC WITH LIFE FOR ALL PROJECTの愛称で、2018年度からの文部科学省の実践研究です♪



参加を希望される方は
事前申し込みを必ずお願いします
♪
申し込み内容：
お名前・連絡先・参加人数
締め切り：2021・12・13（月）
申し込み・お問い合わせ：
福岡市手をつなぐ育成会保護者会
email: hogsha@fiku.jp
電話：092-713-1480



さんかひはむりょうです

1かいめ：13:45 - 14:30（20名）

2かいめ：15:30 - 16:15（20名）

12-26-2021（日）

ふくふくプラザ 5階 音楽室

（福岡市中央区 地下鉄唐人町駅徒歩10分）

主催：福岡市手をつなぐ育成会保護者会
共催：社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会

コーディネーター：米倉裕子
博多音楽療法コミュニティLINKS

超参加型音楽イベント実践報告

障がいと共にある人の家族やサポーター対象

保護者のための音楽遊び

日時：2021年 11月 28日（日）

場所：福岡市市民福祉プラザ 5階 音楽室 （福岡市 中央区）

参加者：6名

MLAPPERS：博多音楽療法コミュニティ LINKS 3名

<<概要>>

福岡市手をつなぐ育成会保護者会、幼児・学齢部会が企画し実施しました。

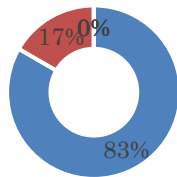
<<プログラム内容>>

超参加型音楽イベント MLAP のファシリテーターとして3名の MLAPPERS を中心にして、新型コロナウイルス感染症防止を鑑みて歌唱活動は避け、十分な距離を保ちながらのリラクゼーション活動を中心としたストレッチや身体活動、また楽器を使用した活動などのプログラムを90分程度実施しました。



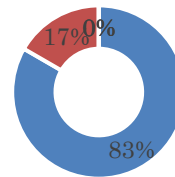
<<アンケート調査結果>>

楽しかったですか



- とても楽しかった
- やや楽しかった
- やや楽しくなかった
- 楽しくなかった
- 未回答

また参加したいですか



- 参加したい
- やや参加したい
- あまり参加したくない
- 参加したくない
- 未回答

♪ いつもが「初めてのセッション」。何をどう表現するか、解放するかもその時その時違い、それがとても楽しいです。音と音の間の無音を拾う耳や感覚が研ぎ澄まされ、体はリラックス、頭はクリアになりました。また参加できるのを楽しみにしています。

♪ またいろんな楽器に触れてみたいと思いました。子ども（4歳男児）にも触れさせてみたいです
♪ありがとうございました。

<<連携>>

保護者の音楽療法及び音楽活動への理解が深まり、今後の更なる連携のきっかけになった活動でした。



<2018MLAP ワークショップより>

MLAP 実践報告会

文部科学省実践研究事業2020 MLAP 実践報告会

あらゆる人に生涯音楽プロジェクト
身近な場所であらゆる人に音楽プログラム
MLAP オンラインセミナー
共生社会へのかけはしに！

日時：2021年2月13日（日） 時間：10:30～12:10

場所：オンライン

<https://www.youtube.com/watch?v=PXTU3kp46S0&t=47s>



福岡市市民局コミュニティ推進部生涯学習課長
文部科学省障がい者学習支援推進室長
福岡市博多区保健福祉センター福祉・介護保険課長
福岡市教育委員会発達教育センター所長
福岡市保健福祉局障がい者部障がい企画課施策企画係長
福岡市立屋形原特別支援学校長
福岡市立東福岡特別支援学校長
福岡市社会福祉協議会ボランティアセンター所長
西日本短期大学社会福祉学科教授
西日本短期大学社会福祉学科講師
（社福）福岡市手をつなぐ育成会 ひまわりパーク上牟田施設長
博多音楽療法コミュニティー
博多音楽療法コミュニティー
博多音楽療法コミュニティー
博多音楽療法コミュニティー
博多音楽療法コミュニティー
福岡市手をつなぐ育成会保護者
MLAP コーディネーター

山下 孝司 氏
清重 隆信 氏
牟田 智佳 氏
諏訪原 佳子氏
氷室 剛 氏
日高 徹 氏
野口 信介 氏
小山 浩俊 氏
一山 幸子 氏
山本 恭大 氏
吉富 孝史 氏
押本 恵 氏
川嶋 茉莉子氏
野田 恵美 氏
古賀 朋香 氏
柴田 佳代子氏
下山 いわ子 氏
米倉 裕子 氏

<プログラム>

- | | |
|-------------------------------|---------------|
| 1. 司会：はじめの言葉 | 下山 いわ子氏 |
| 2. 福岡市市民局コミュニティ推進部生涯学習課長 | 山下 孝司 氏 メッセージ |
| 3. 文部科学省障がい者学習支援推進室長 | 清重 隆信 氏 メッセージ |
| 4. MLAP とは・実践報告 | 米倉 裕子 氏 |
| 5. MLAP の具体的なプログラムの紹介 | 古賀 朋香 氏 |
| | 柴田 佳代子氏 |
| 6. MLAP 体験 | 古賀 朋香 氏 |
| | 柴田 佳代子氏 |
| 7. MLAP 参加者からのメッセージ | |
| 8. 福岡市博多区保健福祉センター福祉・介護保険課長 | 牟田 智佳 氏 メッセージ |
| 9. 福岡市教育委員会発達教育センター所長 | 諏訪原 佳子氏 メッセージ |
| 10. 福岡市保健福祉局障がい者部障がい企画課施策企画係長 | 氷室 剛 氏 メッセージ |
| 11. 福岡市立屋形原特別支援学校長 | 日高 徹 氏 メッセージ |
| 12. 福岡市立東福岡特別支援学校長 | 野口 信介 氏 メッセージ |
| 13. 福岡市社会福祉協議会ボランティアセンター所長 | 小山 浩俊 氏 メッセージ |
| 14. 西日本短期大学社会福祉学科教授 | 一山 幸子 氏メッセージ |
| 15. ひまわりパーク上牟田 | 吉富 孝史 氏メッセージ |
| 16. 博多音楽療法コミュニティ-LINKS | 押本 恵 氏メッセージ |
| 17. 博多音楽療法コミュニティ-LINKS | 川嶋 茉莉子氏メッセージ |
| 18. 博多音楽療法コミュニティ-LINKS | 野田 恵美 氏メッセージ |
| 19. 博多音楽療法コミュニティ-LINKS | 古賀 朋香 氏メッセージ |
| 20. 博多音楽療法コミュニティ-LINKS | 柴田 佳代子氏メッセージ |
| 21. 総括・終わりのことば | 下山 いわ子氏 |

超参加型音楽活動 **MLAP** (むらっぴ) Music with Life for All Project

身近な場所であらゆる人に音楽プログラム MLAP オンラインセミナー

参加費 無料

楽しさ 体感してみませんか♪

共生社会へのかけ橋に

🎵 日 時：2022 2/13 (日) 10:30～〈11:30終了予定〉

🎵 申し込み：hogsha@fiku.jp または 右記QRコードから
お申し込みください。配信URLをお送りします。



～プログラム～

「MLAPを体験してみよう！」
「体験者の感想動画やコメント」
「障がいや年齢、音楽経験なんて関係ないMLAPのヒミツ」
などなど

ゲストコメントも📺
文部科学省障害者学習支援推進室長 清重氏、福岡市生涯学習課長山下氏

お問い合わせ先・主催
福岡市手をつなぐ育成会保護者会
TEL 092-713-1480
Mail hogsha@fiku.jp

協力：福岡市市民局コミュニティ推進部生涯学習課 博多音楽療法コミュニティLINKS
西日本短期大学社会福祉会サークル (社福)福岡市手をつなぐ育成会
後援：福岡市教育委員会 福岡市PTA協議会 福岡市特別支援学校PTA連合会



MLAP体験



絵本を使ったり



あなたが主役



保護者向けの
リラックスプログラム

みんな、感じるままで いいんだよ。
間違いは ないんだよ。
みんな、すてき！

公民館で

高齢者の方も
障がいのある方も
地域の方も



HPのオンライン配信中動画の一部です。
その他にも 太鼓を手作りして鳴らしたり
動画の活用解説版もあります～

『お家でMLAP』
の様子



かっこいいLINKSの演奏を少しだけ♡



本実践研究チーム 連携協議会委員名簿

氏名	所属・役職等	備考欄
米倉 裕子	音楽療法士	MLAPコーディネーター
山下 季司	福岡市市民局コミュニティ推進部生涯学習課長	
芋田 智佳	福岡市博多区保健福祉センター福祉・介護保険課長	
諏訪原 佳子	福岡市教育委員会発達教育センター所長	
水室 剛	福岡市保健福祉局障がい者部 障がい企画課施設企画係長	
日高 徹	福岡市立厚形原特別支援学校校長	
野口 信介	福岡市立東福岡特別支援学校校長	
中庭 洋一	医師	医療法人なかかわメンタルク リニック 理事長
小山 浩俊	福岡市社会福祉協議会ボランティアセンター所長	
一山 幸子	西日本短期大学社会福祉学科教授	
山本 恭大	西日本短期大学社会福祉学科講師	
水野 英尚	地域生活ケアセンター小さなね所長	医療型特定短期入所・日中 一時支援・居宅介護・重度訪 問介護・訪問介護・指定特定 相談支援・指定障がい児相 談支援
竹内 巖	社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会 指定共同生活援助事業 早良ひまわりハウス施設長	
吉富 孝史	社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会 指定障がい福祉サービス ひまわりパーク上牟田施設長	複合型施設(生活介護、 B型、A型)
天野 英樹	DCFA協会員 ドラムサークル福岡主宰者	(株)イーリアス 代表取締役
古賀 朋香	音楽療法士	LINKSメンバー
牛丸 健児	知的障がいのある本人	就労継続A型
下山 いわ子	福岡市手をつなぐ育成会保護者会長	知的障がいのある子どもの保 護者

実践担当は、博多音楽療法コミュニティLINKS



山下 孝司 氏 福岡市市民局コミュニティ推進部生涯学習課長

福岡市生涯学習課長の山下でございます。

MLAP報告会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

MLAPの取り組みは、音楽体験を通して、自尊心の向上や精神的な安定を得ながら、豊かな地域生活を送ることができるようになることをねらいとした生涯学習プログラムです。また、障がいのある方々の社会参加できる機会が増え、地域の皆さんとともに活動することで共生社会の実現にも、寄与するものと考えています。

福岡市手をつなぐ育成会保護者会の皆様、コーディネーターの米倉先生、LINKSの皆様におかれましては、コロナ禍のもと、様々な制限がある中、MLAPの活動を進めていただきありがとうございました。

さて、国際的な動向としまして、平成26年に批准された障害者権利条約の中でも、障がい者の生涯学習の確保が明確に謳われています。また、平成28年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、障がいのある方々が、生涯を通じて学び続けることができる社会の実現に向けた取り組みを進めていくことが急務とされています。

昨年、文部科学省の担当者の方と意見交換を行う機会がありました。文部科学省においては、障がいのある方々が一生涯にわたって自らの可能性を追求し、地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう、多様な学習活動の充実に向けた取組が進められています。

福岡市手をつなぐ育成会保護者会の皆様は、平成30年度の文部科学省の実践研究事業に応募され、3年間、障がい者の多様な学習活動を総合的に支援するための超参加型の音楽活動を軸とした実践研究を進めてこられました。また、令和3年度は、地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進に取り組むため、文部科学省の実践研究事業に採択され、コロナ禍の中、取り組みを進めてこられました。

今年度は、MLAPの活動を公民館の高齢者学級で体験してもらうことができました。

福岡市においては、各校区に設置している公民館において、地域での生涯学習の取組を進めています。また、まなびアイふくおかのホームページに、公民館や大学など、さまざま

まな機関や団体が開催する講座・講演会などの情報を掲載し、市民の皆さまに生涯学習に関する学習情報を提供しています。

公民館など、さまざまな場所で、MLAPの活動が行われるよう、この報告会を通じて、MLAPの取組を多くの皆様に知っていただきたいと思います。



清重 隆信 氏 文部科学省総合教育施策局男女共同参画共生社会学習・安全課 障害者学習支援推進室長

文部科学省の清重でございます。

まず最初に、福岡市の手をつなぐ育成会保護者会の皆様におかれましては、私どもの文部科学省の実践研究事業を引き受けていただき、また成果報告会を開催して頂きますことを御礼申し上げたいと存じます。また日頃よりこのMLAPの活動について積極的に情報発信をしていただいておりますことにも重ねて感謝申し上げたいと思っております。どうもありがとうございます。

さて、MLAPの活動についてでございますが、実は私とMLAPとの初めての出会いは、昨年11月頃中旬ぐらいに、下山会長と本山副会長様と共に福岡市役所を訪れた際に、下山会長からこのMLAPの活動についてお話をお伺いしました。その時聞いた印象として、私は、一筋の希望の光を見たような、そんな思いがいたしました。

この超参加型音楽活動MLAP、音楽の柔軟性という特徴を上手いかしながら、あらゆる参加方法で、しかも本人主体の自由な活動です。

私が申し上げるまでもありませんが、非常に自由度の高い、この社会包摂的な活動、こういうことは、いわゆる障がいのある人もない人も、地域の住民の方々のだなたでも誰でも参加できる、非常に自由なプラットフォームのように見えます。まさに、これからの共生社会に向けて目指すうえで、非常に有力な手段ではないかと感じました。

今後も、できるならば、地元の福岡市のリソース、例えば公民館とか色々ありますけれども、そういったところでも活動させて頂きながら、面的な地域に広がっていくことを期待しております。

また同時に、福岡市様の方からも、バックアップを大いに期待させて頂いているところでございます。ちなみに文部科学省も、微力ながらぜひ応援させていただきたいと思っております。

おります。

最後になりますが、福岡市手をつなぐ育成会保護者会の皆様、そしてご参会の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げまして、私より簡単ではございますが、ご挨拶させていただきます。どうぞ宜しくお願い致します。



牟田 智佳 氏 福岡市博多区保健福祉センター福祉・介護保険課長

牟田と申します。博多区の保健福祉センター福祉介護保険課に従事しています。

私が MLAP の企画に参加しながら心がけていたのは、誰でも気軽に楽しく身近に続けられる、そういった事業が理想だと思っていました。

今後の展望と期待ということで提供する側の課題3つ。①欲しい人に欲しい情報が届くように②参加したい、継続したい楽しさが伝わるように③行動を妨げない合理的な配慮。参加する人の方も自分を主人公にして、【自己決定力】自分がやりたいことを知って周りに伝える、【相談力】やってみたい、続けたい、助けて欲しいを人に伝える、【発信力】社会の中で自分を知ってもらい認められるのが第一歩だと思います。

自立とは、社会の中で個人【私】が認められること。

孤立とは、社会の中で関係性が途絶えること。

だから、障がい児障がい者の方、ご家族の方々、それから高齢者とか子育て中のご家族、外国人の住民の方や出かけるのが難しいという方たちも、「もっと自分たちを知ってほしい」「自分たちも一緒にやりたい」と、いろいろな活動に出かけて行けるといいと思います。

MLAP が、そういうチャンスの一つとして社会に広がることを期待しております。



諏訪原 佳子 氏

福岡市教育委員会発達教育センター所長

こんにちは

福岡市発達教育センターの諏訪原です。

むらっぴ！このことは、なんだか元気がでてくる、楽しくなる 音の響きだな・・・と思っています。

楽しむことは次に進むための第一歩。

楽しいから、もっとやってみたい、もっと知りたいという気持ちが出てきます。楽しいから繰り返すことでできることが増えて、自信が出てきます。その気持ちはまずは自分のなかからわき出し、そして、周りにも広がっていくものではないでしょうか。

超参加型音楽活動ムラっぴは、まさに楽しみながら、自分を、周り、そしてお互いを知り、つながっていける活動だと思います。

あちこちでムラっぴの活動が実践され、さまざまな人々が音楽を通してつながり、高めていくことができる世の中になっていくことを期待しています。



氷室 剛 氏

福岡市保健福祉局障がい者部障がい企画課施策企画係長

福岡市障がい企画課の氷室でございます。一言コメントさせていただきます。

MLAP は 2018 年から始まりました。現在社会がコロナ禍にあって、さまざまな活動が制約されています。MLAP は本来が人と人との触れ合いだったり繋がりがったり、そういったものを大事にしたプログラムと思っています。そういった意味では密を避ける中での活動にジレンマを感じる関係者の中には、そういう思いを持った方も多かったのではないかと思います。

そのような中で取り組まれた MLAP ですが、イベントを思い返すと、参加している

みなさんが、最初は周りの様子を見ながら遠慮がちに参加しているのですが、時間が経つと、みんなで楽器を使って歌って踊って学習活動の場として、また音楽療法として、とても効果的な取り組みであるのはもちろんですが、見ていて単純に楽しそうだなと感じたのがとても印象的でした。

「楽しむ」というのは自己表現の原点、成長の原点のような気がしています。MLAPはそういう機会の提供する取り組みとなっています。楽しむことに障がいのあるなしは関係なくて、成長していくことに障がいのあるなしは関係ないと思っています。MLAPを通してそういう場を作っていくことの大切さ、そのようなことを改めて感じたところです。これからこういう取り組みが社会に広がっていくことを期待しております。



日高 徹 氏 福岡市立屋形原特別支援学校長

屋形原特別支援学校校長の日高でございます。この事業も始まって4年目になります。私も縁あって協議会委員として参加させていただいて私も4年目になります。この間で学校としてどんな連携ができるかと模索はしていましたが、何しろこの4年間のうちの半分以上がコロナ禍で思うようにできなかったというのが一番の心残りです。

しかし学校側としてはこれまでもご提案したように青年学級であるとか、あるいは高等部や中学部、学校の中の体育等の授業で、何とか連携できないかということは、今後とも模索して行く必要があるかと思っています。

MLAPの活動自体は素晴らしいものだと思っておりますし、音楽療法を含め障がいのある子どもたちに有効なものだろうと思っていますので、何とかこれから先、コロナ禍が少し落ち着いて、また連携していくことができると願っているところです。

私自身4年間本当にありがとうございました。



野口 信介 氏 福岡市立東福岡特別支援学校長

みなさんこんにちは、東福岡特別支援学校で校長をしています、野口と申します。

福岡市では【ともいく】を大切にしています。【ともいく】とは子どもたちが学校だけではなく、家庭や地域の中で様々な体験をしながら学ぶ機会を作り、学校、家庭、地域が一つになって子どもたちを育もうと言うものです。

米倉先生や下山さんを中心とした MLAP の活動は、まさしくこの【ともいく】の考え方を具体化していると思っています。

MLAP の中核にある超参加型音楽イベントは、誰もが参加できることを目指して作られ、様々な視点からいろいろな価値が内包されています。でも、難しく考えずに気軽に参加して欲しいと思っています。

このイベントでは障がいのある人もない人も、単純に音楽を楽しめばいいのです。その中で色々な人との関わりが自然と強くなり、自分自身が笑顔になれ、そして自分を含めたひとりひとりの価値に気付く、まさしく共生社会を主体的に生きる姿だと思っています。

これからは、学校の授業や地域のイベント、公民館サークルなどでも積極的に取り入れていただけるといいなと感じています。MLAP はこれからますます共生社会の担い手を育む可能性を広げてくれると思っています。これからも一緒に頑張っていきましょう。ありがとうございました。



小山 浩俊 氏 福岡市社会福祉協議会ボランティアセンター所長

福岡市社会福祉協議会ボランティアセンターの小山と申します。

たくさんある MLAP の魅力の中から 3 つに絞って私からはご紹介します。

一つ目は音楽の持つ力です。音楽という切り口だからこそ、考えや言葉といったものを

超えて自然に楽しむことができるのが MLAP の魅力です。

二つ目に本人主体で参加ができることです。参加する人が評価をされたり参加を強制されたりするようなことがないので、それぞれの参加の仕方に参加ができますし、自分なりの感じ方や表現というのが自由にできるっていうのも MLAP の魅力の一つです。

三つ目に地域共生社会づくりにつながることで、障がいのある方にとっては社会参加や豊かな地域生活につながる機会になりますし障害の無い方にとっては障害を知るという理解が広がる機会になるというふうに感じています。

またプログラムの中で、希望する人は前に立って主役になれるような場面もありますので、誰もが役割、出番のある社会づくりというところにも繋がっているかと思います。

MLAP は他にも様々な効果や広がりを生む取り組みだというふうに感じています。

身近な地域に MLAP や MLAP のような取り組みが当たり前になるような社会になって行くことを願っています。これからも応援しています。



一山 幸子 氏 西日本短期大学社会福祉学科教授

※おめでとう むらっぴ のうた

- 1) MLAP は、まずとっても楽しい場所です。楽しく、安心、安全です。どのような参加の形でも大丈夫です。とっても居心地が良いのが MLAP です。
- 2) MLAP は生涯学習の場です。子ども達は、一生涯学んでいきます。社会性、コミュニケーション、MLAP の活動場所までの交通手段を身に着けることなど、MLAP は生きる力を獲得していきます。
- 3) 西日本短期大学の学生達は、ネパール、ベトナム、中国、スリランカなど様々な国から来ています。日本人学生も外国人学生も沢山の学生達が MLAP のボランティアに参加させて頂きました。学ばせて頂きました。国籍、男性女性、年齢、障がいの有無等は全く関係ありません。全ての人々が認められ、全ての人一人一人が尊重され大事にされる共生社会を作っていくのが MLAP です。

4) MLAP は今年5年目となりました。これからもずっと続けて頂きたいと願っております。どうぞよろしくお願いいたします。どうも有難うございました。むらっぴー❤️



吉富 孝史 氏 社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会
指定障がい福祉サービス ひまわりパーク上牟田施設長

こんにちは。皆さん初めましてひまわりパーク上牟田の吉富と申します。

ひまわりパーク上牟田とは障がい者の通う日中の多機能事業所でございます。当事業所には知的に障がいのある方以外に視覚障がい者の方と聴覚障がい者の方などさまざまな方がいらっしゃることをまず、お伝えします。なぜそのような話をしたかということ、私が MLAP に出会ったのが 4 年前でした。4 年前に一緒に MLAP をみんなで初めて体験しことに遡って話をさせていただきます。

「MLAP さんってどんな団体なんだろう」とみんなで心待ちにして、楽しみにして当日を迎えました。「こんな方々がくるよ」と色々説明を差し上げる中で、やはりイメージがわきにくい視覚障がい者の方、聴覚障がい者の方への支援というのは、かなりの時間を要して説明を差し上げた記憶がございます。

聴覚障がい者の方に説明を差し上げると、一番初めに言われたのが「お前分かってんのか。俺の耳聞こえないんだぞ。その中で音楽とは、お前、俺のこと馬鹿にしてんのか」と、本当に率直に言われた記憶がございます。MLAP の方に来ていただいたその日も、名刺をお渡しして MLAP の方から聴覚障がい者の方に「今日よろしくお願ひします」と言う挨拶をしていただいた時にも、その方はすごい剣幕で「俺耳聞こえないからよろしく」と今までの彼の音楽生活を物語った一瞬だったなーというような記憶があります。

ところが一時間後 MLAP 活動が終わった後、彼は今までにない満面の笑みで音楽を迎え入れていたのを 4 年前のことですが、特に思い出します。同じく視覚障がい者の方もそうでした。

MLAP の音楽というのは、誰もが参加できる生涯参加型音楽というのが定義でございます。嘘偽りがなくみんなが参加できます。音楽だから当たり前じゃないと思う方や、是非参加して頂きたい引っ込み思案な方、恥ずかしい方も、自然といつの間にか主役になっているという不思議な魔力を持った音楽が、MLAP だと思っています。

そんな MLAP さんは今まで、2 年 3 年 4 年とコロナ禍でも、動画撮影と我々は本当に

身近に感じてきました。これからも生涯学習として、障がいのあるなしにかかわらず、みんなが主役となって音楽を楽しめる活動を続けていって頂きたいと思うとともに、公民館や子どもプラザ、ちっちゃな赤ちゃんに悩んでいる保護者の方に関しても、音楽を通じて赤ちゃんやお母様にも安心を提供するような団体でありつづけたいと思います。そんな団体です。すみません。拙い言葉ですが私の方から MLAP のすばらしさが少しでも伝わればと思っています。以上でございます。ありがとうございました。



参加者の声



島崎さん親子コメント

皆さんこんにちは！

本人；僕はみんなと音楽の演奏で古賀朋香先生が「お好きにどうぞ」って言って楽器ではいろんな音を出すことができて面白かったです。

父；体をいっぱい使って、普段使わない創作ダンスみたいなものをしたので、使わない脳みそをたくさん使って体が温まりました。ありがとうございました。

母；私は音楽って改めて音をどうにかするっていうのではなくて、心や体を使っていっぱい表現することなんだっていうのを改めて感じました。とっても楽しかったです、また参加します。

じゃあねバイバイ！



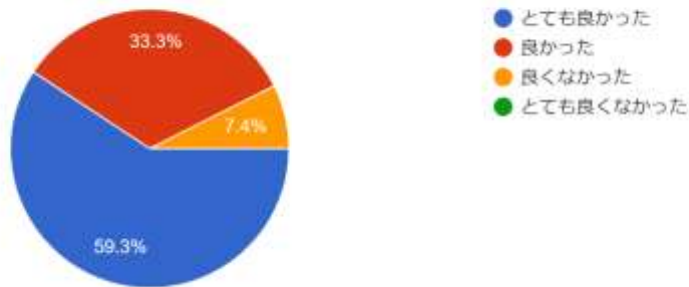


入所施設の余暇活動で♪

報告会アンケート結果

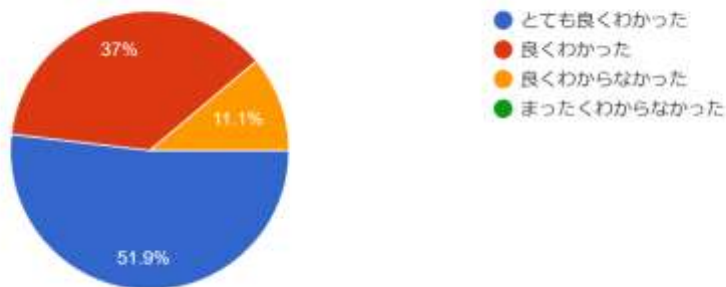
設問1：今回の「報告会」はどうでしたか？

27件の回答



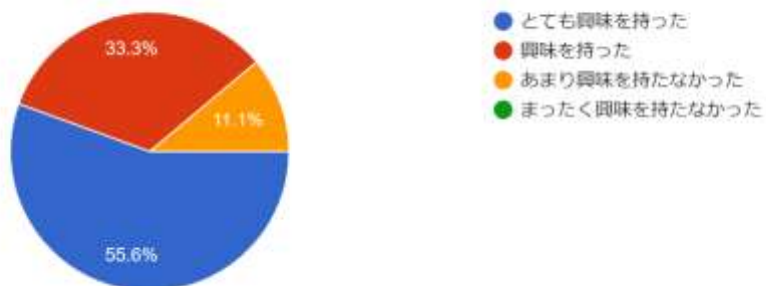
設問2：「MLAP」のことが理解できましたか？

27件の回答



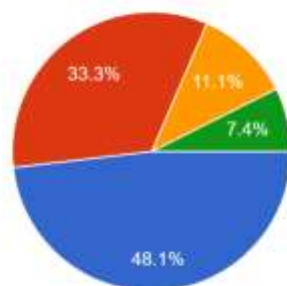
設問3：「MLAP」に興味を持ちましたか？

27件の回答



設問4：「MLAP」に参加してみたいと思いますか？

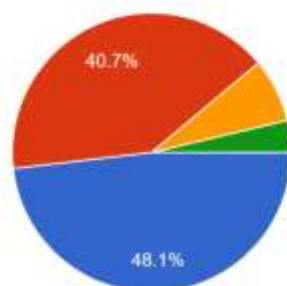
27件の回答



- とても参加してみたいと思った
- 参加してみたいと思った
- あまり参加してみたいと思わなかった
- まったく参加してみたいと思わなかった

設問5：「MLAP」をサポートしてみたいと思いますか？

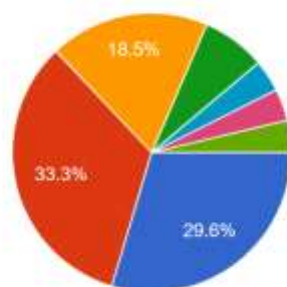
27件の回答



- とてもサポートしてみたいと思った
- サポートしてみたいと思った
- あまりサポートしてみたいと思わなかった
- まったくサポートしてみたいと思わなかった

設問6：この報告会をどうやって知りましたか？

27件の回答



- MLAPに参加した事があるから
- MLAP関係者に紹介されたから
- 知人の紹介で
- チラシを見たから
- 偶然に見つけたから
- 市HPで見かけました
- 学校の先生
- 学校

<自由コメント>

♪素敵な取り組みがあるのだなと思いました。育成会のメンバーは保護者の方々でしょうか？報告会ありがとうございました。

♪本日はお疲れさまでした。楽しく学べました。

♪MLAP 報告会とっても感動でした！！やっぱり MLAP 最高ですね！！今後共、どうぞ宜しく願い申し上げます！！

♪とっても素敵な報告オンラインセミナーでした。様々な方がかかわってくださっている様子が見れて、リンクスメンバーとして、実行委員会に携われる身として、実感のある報告会でした。下山会長をはじめ、ご協力いただいたすべての方に感謝申し上げます。少しでも、ムラップの魅力が共生社会のために広がりますように・・・

♪これまでの MLAP のことがよくわかる報告会でした。見ていてとても楽しくなりました。MLAP にまた家族で参加したいと思いました。

♪音楽の持つ可能性について理解することができたと思います。まだまだわからないことも多くありますが、少しずつ知ることができたらと考えております。

♪報告会とても面白く、またわかりやすく拝聴させていただきました。コロナの中でいろいろな形での活動の継続はとても大変だったと思います。しかしながら、その中で発達していった動画等のオンラインという形で、遠くの地でもつながる事ができました。今後の自分の仕事の中でも活用していきたいと思ひますし、重度の障がいを持ち、外出のままならない方もおられます。そんな方にもうってつけと感じました。今後とも運営等大変かと思いますが、頑張ってください。

♪以前、五嶋みどりさんのボランティア活動を観て天才ヴァイオリニストだから、障がい者たちが奏でるバラバラの音をひとつにまとめられたのだと勝手に感動していましたが、MLAP の活動を知って、そう言ったメソッドがあると分かりました。楽しいうれしいこの活動をぜひ広げてください♪

♪ I'm OK, You're OK, Everyone here is OK! この精神こそが MLAP であることを改めて思ひました。表現者としてすべての「わたし」が主役である心地よさ。そして受け容れて共感してもらえる心地よさ。私たちはみなそれぞれ個性を持ちながら、音楽を通してお互いを理解できる活動だと思ひました。ふと、「ゲシュタルトの祈り」を思ひ出しました。素晴らしい報告会でした。今後の活動が更に広がり発展していくことをお祈りしています。

♪1時間を超える報告会でしたが、重度知的障がいのある小5の娘も最後まで視聴しておりました。私はPTA活動をしておりますので、PTAの会長として、よりMLAPのお力添えができればと思いました。また必ず参加させていただきます！

♪私もスタッフとして参加したいです。

♪見たら嬉になった

♪MLAPの専門性に敬意を表します。

♪MLAPの目的と現状のギャップを埋めるものは、..。

♪福祉施設や地域は無数にあるなかで、MLAPの専門性を再現できる人員が少ないならば、少しハードルを下げる必要もあるかと思います。

♪現実的に活動を無理なく高齢者施設で取り入れていくには時々情報を提供していただければ、真似してできると思うのです。

♪そういう立場でかかわっていく側にとってMLAPを広める事の意味づけがわかりやすく共有できればいいのかしら、と思います。

♪現状福祉施設では何かしら音楽活動を現場職員が担っていると思います。そういう方がもっと専門性を学べる場を作ることにはできますか。

♪また受け入れ側が中間的な立場でできることを具体的に提示してみてもいいかでしょうか。

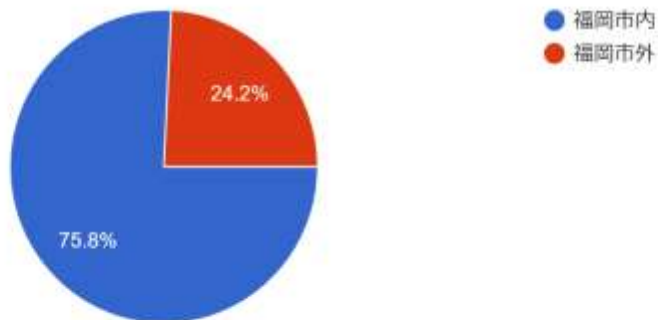
♪リアルMLAPの受け入れ側としてはMLAPを招き入れる事はウェルカムだと思うのですがMLAPサイドで人員の派遣は可能ですか。条件などがありましたら知りたいと思われと思います。

♪申込方法がわかりにくかった

<2021MLAP 報告会 参加申し込み Google フォーム結果>

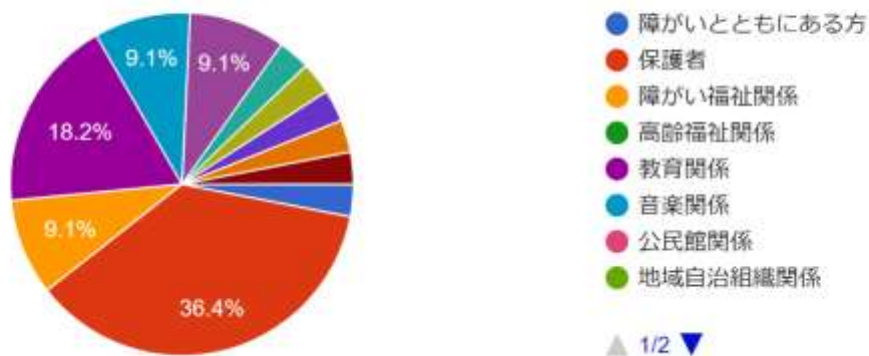
お住いの地域

33 件の回答



所属

33 件の回答



<申し込み内訳>

<p>Google フォームからの申込 33人</p> <p>市外 8 障がい福祉関係 3, 音楽関係 2, 医療関係 1, 行政関係 1, 教育関係 1</p> <p>市内 25 保護者 12, PTA 団体 1, 音楽関係 1, 教育関係 5,</p> <p>障がいとともにある方 2, LINKS 1, 報道関係 1, 行政関係 2,</p>
<p>メールからの申込 15人</p> <p>市外：障がい福祉 2, 高齢者福祉 1, 行政 1</p> <p>市内：学生 2, 高齢者福祉 1, LINKS 1, 障がい者福祉 1, 行政 1</p> <p>所属不明 5</p>

MLAP の活動を広げるために

文部科学省の方との意見交換会

日時：2021年11月16日（火） 時間：10:30～11:30

場所：福岡市役所内 会議室（福岡市中央区）

参加者：

清重 隆信 氏：文部科学省総合教育施策局男女共同参画共生社会学習・安全
課障害者学習支援推進室長

鈴木 孝志 氏：文部科学省 総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全
課障害者学習支援推進室 障害者学習支援第一係

山下 孝司 氏：福岡市市民局コミュニティ推進部生涯学習課長

篠崎 智恵子氏：福岡市市民局コミュニティ推進部生涯学習課係長

下山 いわ子氏：福岡市手をつなぐ育成会保護者会会長

本山 悦子 氏：福岡市手をつなぐ育成会保護者会副会長

<概要>

1. 文部科学省から、文部科学省の実践研究についての説明
2. 下山から資料を用いて MLAP 実践の経過説明、本年度の状況説明

① 3年間の MLAP の活動から得られたこと：

- ・経験豊富な音楽療法士のコーディネートによって開発されたプログラムは、障がいとともにある人たちが楽しく参加でき、社会参加や生涯学習となり得ると考えられる。
- ・だれもが参加できる、そして、それぞれの参加の仕方が尊重される居心地の良いプログラムの MLAP が、障がいのある人もない人も年齢や性別、国籍を超えて、自然と知り合う場となり、自然と自分自身とお互いを尊重する気持ちが芽生える、この MLAP の活動が共生社会へのかけはしとなり得ると考えられる。

<アンケートから>

- ・障がいのある本人は、参加しているうちに、ボランティアを希望してボランティアとして参加するようになったり、その姿を年下の子どもたちが「次は、自分も」と思う

よくなったたりしている。

- 聴覚障がいの方から「最初は参加したくないと思っていたが、2回目から楽しくなり、3回目はとても楽しかった。次も参加したい。」
- 学生ボランティアの方から「MLAPで初めて障がいのある人と接したので、はじめは不安だったけど、障がいのある人も自分と一緒にだと感じるようになり、一緒に楽しんだ。」
- 地域の方から「障がいのある人にできることがあるのかと思っていたが、一緒に楽しむことができた」

② 課題

- 周知が難しい。
- 3年間の実践では、参加してもらおうと「楽しかった」「やもう一度参加したい」「もっと広まると良い」など感想があるが、参加してもらおうことが難しかった。
- MLAPPERSの育成まで、実践が不足しており、できていない。

③ ニーズ

- 生涯学習として継続して参加するには、身近な場所で、気軽に参加できるようにしてほしい。遠いと継続して障がいのある家族を連れて行くのが難しく、気域の人との関係がとれない。

④ 課題に対して今年度の取り組みの方向性

- 福岡市は、小学校区に公民館があり、公民館では地域と密着した活動を行っている。よって公民館での活動が、継続して身近な場所で地域の人ともかかわりをもてる活動になると考えた。今後、公民館等からの依頼に応える形になると地域に定着して継続した活動になると考えている。
- 公民館への周知は、生涯学習課が担ってもらえることになった。
- 青年学級や特別支援学校でMLAPを取り入れてもらうよう特別支援学校での校長会で提案する。よく知っている学校は、参加しやすい場所であり、学齢期からMLAPを体験していることで、地域でのMLAPに参加しやすくなると考えた。
- 今まで同様に引き続き、障がいのある方たちの状況に応じた clause のプログラムでマンツーマン、小グループなどや福祉事業所での実践も行う計画にしていた。
- MLAPPERS 育成も計画していた。

⑤ 今年度の実践の現状

- コロナ禍により、公民館が休館となったり、音楽療法士の方たちも職場から外出の

制限があったり、感染のおそれがあり活動ができない状況が続いている。

- 動画撮影や MLAPPERS 養成講座も同様の状況により、進んでいない。

⑥ 本山さんの経験談

- わが子は重度の知的障がいのある子どもで、ことばもないが、楽しく継続して参加している。少しずつだけれど余裕をもって活動したり、初めて参加する学生ボランティアの方に準備や片づけを教えたりする姿に成長を感じてうれしい。これからも、継続して参加したい。

3. 意見交換

- 清室室長から山下課長に「MLAP の実践は期待しているので協力をぜひ進めてほしい」との話があり、課長からは承諾の返事と公民館への周知や講座への活用依頼・推薦、他行政等行事の情報提供の協力の話もあった。

<資料>



MLAP意見交換会

2021年11月16日（火）、10：30～、
福岡市役所内 11階会議室



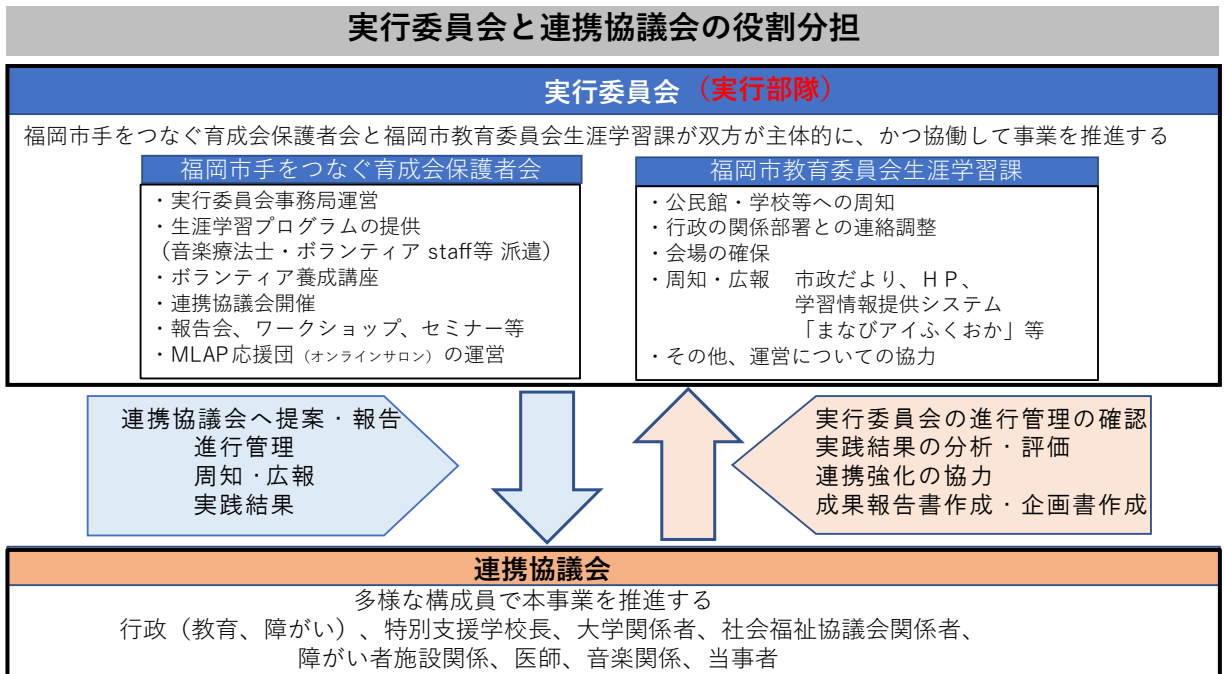
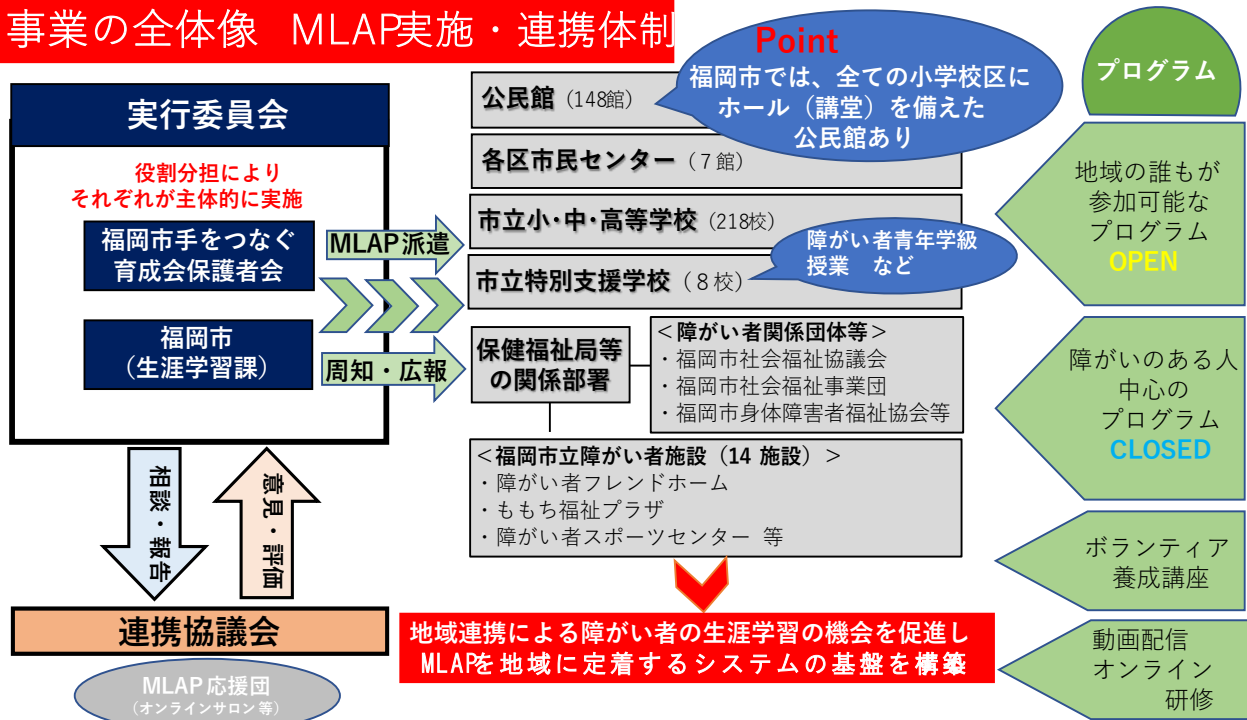
MLAPの特徴

- MLAP が超参加型音楽活動を手段とする理由は音楽の柔軟性を利用することで、個人でも集団でも、CLOSED でも OPEN でも、能動的でも受動的でも、身体と五感を使ったあくまで本人主体のあらゆる参加方法が可能になるからです。
- MLAP の特性を生かし、人とのふれあいを楽しみながら、本人の障がいニーズに合わせたコミュニケーション力を音楽経験によっていつの間にか学習することができます。
- MLAP は、よく訓練された MLAPPERS (ムラッパーズ) によって展開されます。

例えば...



事業の全体像 MLAP実施・連携体制



2021年度 実践研究進捗状況

コロナ禍においての実践が厳しい

- 会場の閉鎖
- 参加者、スタッフの安全の確保
- 動画作成も 同様

今年度は 来年度に向けての種まき

- 公民館実践 1か所（録画）
- 公民館 1か所 公民館関係団体と共同で
- 特別支援学校長会での紹介と青年学級やカリキュラムの活用の提案
- 公民館向けプロモーションDVD作成
- 2月6日（日）、報告会

https://youtu.be/wczJn_IOwoQ



花畑公民館長との面談

日時：2021年11月24日（水） 時間：14:00～15:00

場所：花畑公民館（福岡市南区）

参加者：楠窪 マスミ 氏：花畑公民館長

下山 いわ子氏 福岡市手をつなぐ育成会保護者会長

*MLAP 連携協議会委員の小山氏からのご紹介。花畑公民館長の楠窪マスミ氏は、（社福）福岡市社会福祉協議会 ボランティアセンター所長）障がい者福祉事業所の立ち上げから現在も理事長を務められている。

<概要>

1. MLAP 紹介

- ・2020MLAP 報告書、校長会で配付した DVD、添付の資料で紹介

2. 相談

- ・公民館で MLAP 実践を活用してもらえないか

▶楠窪館長には、障がい者の生涯学習としての MLAP の意義や有効性、また共生社会への寄与について共感していただいた。公民館だけでかかわるよりも、地域の方たちと一緒に取り組んだ方が地域に根付いた活動になるので、少し検討させてください、とのことだった。

<資料>

文部科学省の実践研究に取り組んで4年目です



福岡市手をつなぐ育成会保護者会





MLAP (ムラップ) 地域の人を巻き込んだ参加型音楽会の様子

日 時：2019-12-22 (土)
 時 間：10:30~11:45
 場 所：福岡市市民活動プラザふくふくホール
 参加者：地域住民など約80名
 スタッフ：音楽療法士メンバー 4名
 ボランティア：一般2名 (内1名、学年の障がいのある者) 福岡大学・西日本福岡大学 学生25名 西日本福岡大学和太鼓サークルメンバー 4名
 コーディネーター：本倉裕子
 場 所：福岡市内の特殊支援学校に案内をすることで繋がりができて、今後の連携のきっかけになった



動画プログラムによる参加

動画プログラムの例 (身体活動)

MLAP

動画プログラムによる参加

個人を対象とした音楽療法

小学校6年生までのグループ音楽遊び

中学生以上のグループ音楽療法

地域の人を巻き込んだ参加型音楽会

MLAP



障がい者の生涯学習に MLAPを

対象を選ばない	それぞれの参加の仕方を尊重	▶ 地域でのMLAPに
自然に楽しく学び合う	プログラムの組み合わせ自由	

↓

障がい者の生涯学習をとおして 障がい者の社会参加と 共生社会を願って。

お問い合わせは、こちらまで♪

福岡市手をつなぐ育成会保護者会

電話 092-713-1480
 E-mail hoesha@fiku.jp

11

生涯学習課との共同・公民館との連携

今年度は、福岡市生涯学習課と共同して実践を行いました。

生涯学習課長には、連携協議会委員として、係長には、実行委員会のメンバーとして参画していただきました。

また、公民館関係者の方にも MLP 実践について考えていただきました。

1. 連携協議会委員、実行委員会メンバーとしての参画

- 実践研究の目標・成果達成に向けて、年度を通して、特に連携協議会の前後、催しの前後には中心적으로ご相談し、業務遂行のためのご協力をいただいた。

2. 広報のご協力

- 福岡市ホームページに「2021MLAP 報告会」を掲載
- 「まなびアイふくおか」に掲載

3. 周知のご協力

- 報告会について、市内全公民館や行政関係部署に、生涯学習課から催しの周知連絡

4. 催しの場所の予約のご協力

- 報告会会場の予約、キャンセル（今回、報告会がオンライン配信になりキャンセル）

5. 実践のご協力

- 今年度の大きな実践目標であった公民館での実践にむけて、事前打ち合わせから参加し、必要事項の確認。

また、当日も視察し、実践後公民館事業における MLAP のあり方など反省点や課題についての助言

6. 文部科学省の担当者の方との意見交換会のご協力

- 市役所にて場を設けていただき、意見交換を実施。

文部科学省と生涯学習課の担当の方と直接話ができ、MLAP の活動についてご理解・ご支援のお話は、大きな勇気をもらえました。

7. 三筑公民館長 西路子氏・主事 境真弓氏、博多区総務部生涯学習推進課 主査 堤清武氏

には、三筑公民館の実践と一緒に取り組んでいただきました。また花畑公民館長 楠窪 マスミ氏には、公民館事業としての MLAP について一緒にご検討いただいています。

広がっていく MLAP の活動

ダイバーシティ&インクルージョン
DIVERSITY & INCLUSION
100人カイギ
2021.10.12 火 19:00-21:00 zoom #11

古市 理代 さん
NPO法人アクセションズ 理事長

原 祥太郎 さん
(公益財団法人)アイメイト協会 歩行指導部長

前田 哲平 さん
株式会社コワードロブ 代表取締役社長

光原 ゆき さん
NPO法人キープ・ママ・スマイリング 理事長

一山 幸子 さん
西日本短期大学 社会福祉学科 教授

DIVERSITY & INCLUSION 100人カイギ

(令和3年10月12日)にて、報告したことについて
西日本短期大学 一山幸子

「ダイバーシティ&インクルージョン100人カイギ」では、福祉職の魅力についてお話させて頂きました。以下の内容を発表いたしました。

福祉の魅力

1. 介護福祉士を目指す学生達
2. MLAP (むらっぴ) ★
3. ご近所応援団
4. 障害児の療育
5. まとめ

1. 介護福祉士を目指す学生達に
 - 1) 学生生活を楽しんでほしい
 - 2) しっかりモリモリ勉強してほしい
 - 3) 介護福祉士として、障害児者施設、高齢者施設で活躍できるような人材になってほしい
 - 4) 利用者の方々の人生を支援することができるように
 - 5) 学生達の人生を支援できるようになってほしいという願いがあります。

サークル活動は、学生生活を楽しんでほしい、ボランティアを通してより多くのことを学ん

でほしいと私達は願っており、学生達は学生生活を楽しみたい、より多くのことを学びたい、と望んでいます。手話サークルや社会福祉会ボランティアサークルでは、その希望を達成することができる有効な手段の一つです。

2. MLAP (むらっぴ) ★

MLAP とは、あらゆる人に生涯音楽プロジェクトです。

年齢・性別・国籍・障がいの有無などに関わらず地域住民のだれもが参加できる参加型音楽会であり、2018年～文部科学省の実践研究事業として採択されました。

MUSIC with おんがくとともに

LIFE for しょうがい

ALL あらゆるひと

PROJECT プロジェクト

MLAP に参加をして感じたこと：

- 1) 重症心身障害の方、高齢者の方、子どもたちが参加し、座ったままで、誰もが参加できる活動である。
- 2) 嬉しくて歓声が上がっている利用者の方もおられた。

★学生の感想：

- 3) みなさんの笑顔が見られて元気が出た
- 4) みなさんから拍手をもらって、自信を持って前に出て踊りなどができるようになった
- 5) 障害がある方と初めて関わり勉強になった
- 5) とても楽しかったのでまた参加したいと思った

⇒MLAP は、学生達にとって、貴重なボランティアの機会である。MLAP の参加を重ねていき、ムラッパーになれるよう養成していく、またムラッパーを増やしていくことが求められると考える。

5. 福祉職の魅力 まとめ

- 1) 障害のある方、高齢の方を支える仕事は、将来なくなることはない。
- 2) 人の人生を支える大事な仕事である。
- 3) MLAP やご近所応援団等のボランティアに参加することによって、障がいがある方、高齢者の方々、地域の方々など様々な方との出会いがある。
- 4) 自分自身の学び、自己研鑽となる。
- 5) 人のために尽力すること、利他の精神が社会福祉の仕事である。
- 6) 社会福祉の仕事は、人格完成を目指すことである。

一山が発表した際に、参加者の方には「MLAP について、興味関心がある」、「MLAP はとても素敵な活動ですね」等とコメントを言って下さった方もおられました。

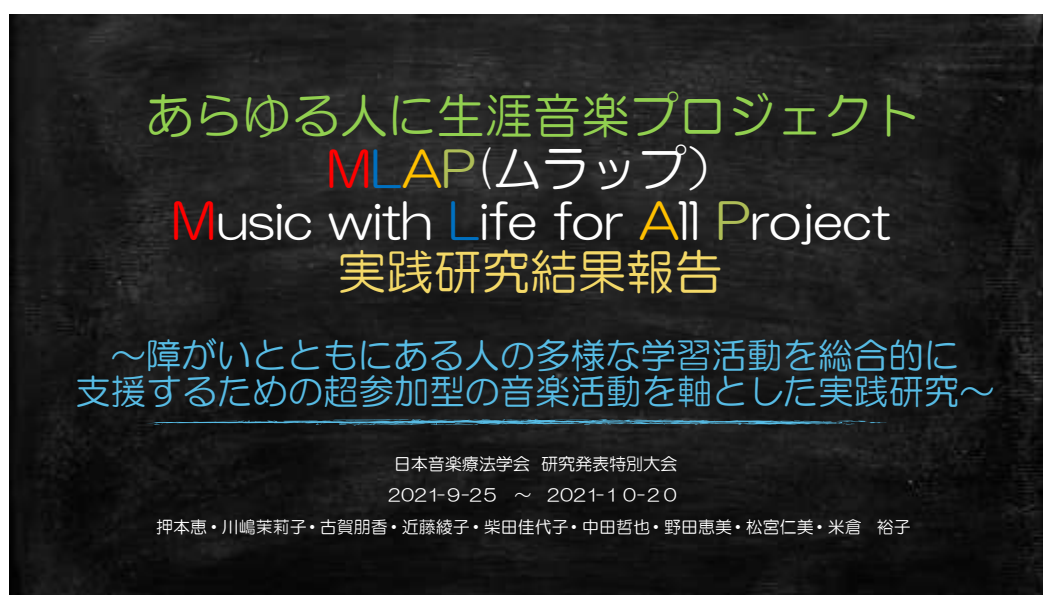
学会報告

第21回 日本音楽療法学会学術大会

実施期間：2021年9月25日～2021年10月20日

場所：オンライン

今年度オンラインで開催された日本音楽療法学会学術大会において、「あらゆる人に生涯音楽プロジェクト MLAP 実践研究結果報告—障がいとともにある人の多様な学習活動を総合的に支援するための超参加型の音楽活動を軸とした実践研究—」が、研究発表として採択され、上記期間内においてオンラインでの発表となりました。日本音楽療法学会での発表は、音楽療法士への MLAP の活動周知のみならず、MLAPPERS 発掘の場として考えていることから、近い将来に口頭発表が可能になった際に、改めて MLAP プロジェクトの魅力を伝えていくことができると考えています。



定例実践報告 1

障がいがある本人を対象とした個人音楽療法〈ほっぴ！〉



実施期間：2021年7月～2022年2月

実施回数：7回

場所：福岡市立城南障がい者フレンドホーム
内日常生活訓練室（福岡市城南区）

参加者：個人を対象とした音楽療法希望者
6名（内3名・学卒者）

定例実践報告 2

障がいがある18歳以上を対象とした小グループ音楽療法「ノートン」

今年度、実施されることはありませんでした。



定例実践報告 3

社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会障がい者支援施設 福岡ひまわりの里における音楽療法（余暇活動）

今年度実施されることはありませんでした。

定例実践報告 4

大学生を中心としたボランティア養成講座

今年度、実施されることはありませんでした。



音楽療法士を中心とした勉強会 博多音楽療法コミュニティ「LINKS」



実施期間：2021年7月～2022年2月

実施： 7 回

場所：福岡市市民福祉プラザ内音楽室・会議室など（福岡市中央区）

対象：音楽療法を教育機関で専門的に学んだ経験があり、音楽療法を実践している専門家を中心にして2007年から実施している勉強会で、名称は「博多音楽療法コミュニティLINKS」、MLAPを実践している

MLAPキャラクター「むらっぷう♪」



共生社会を見据えた調査結果

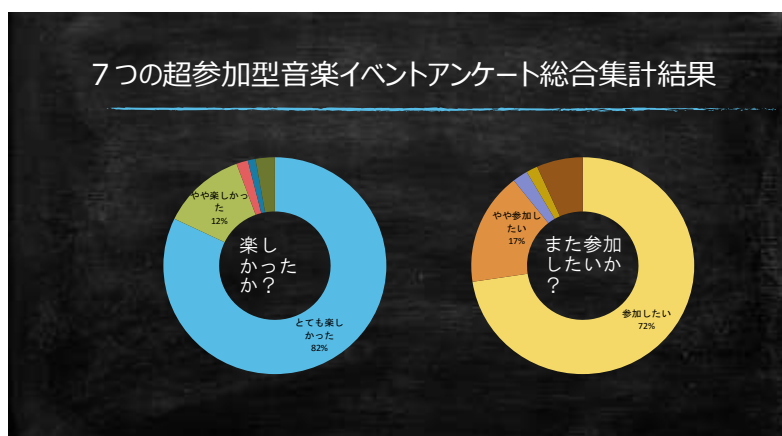
超参加型音楽イベント MLAP では、実施する際に必ずアンケート調査を実施しました。様々な方の参加を見込んでいるイベントであることから、アンケートのデータのとり方の工夫として筆記による記入の他にも

「楽しかった」「また参加したい」と感じたら、イベントが終わった出口で、紙で作成した花を籠に入れるという方法を取り入れました。



以下に示したグラフは、2019年度に実施したワークショップとシンポジウムを除いた、7つの超参加型音楽イベント MLAP において収集したアンケートを総合して集計したグラフです。被験者には、一般地域住民、大学生、留学生、施設職員、利用者、保護者、障がいとともにある人などを含んでいます。

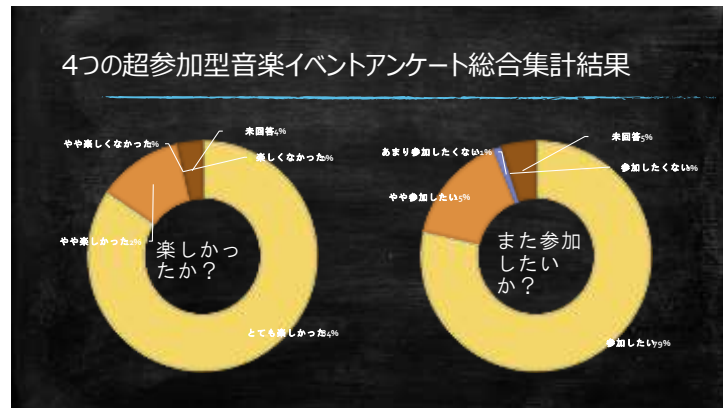
「楽しかったか」という設問に対しては、「楽しかった」と「やや楽しかった」を含めて、94%、また、「また参加したいか」という設問に対しては、「また、参加したい」と「やや参加したい」を含めて、89%という結果でした。



以下に示したグラフは、2021年度に実施した4つの超参加型音楽イベント MLAP において収集したアンケートを総合して集計したグラフです。被験者には、一般地域住民、施設職員、利用者、保護者、障がいとともにある人などを含んでいます。

「楽しかったか」という設問に対しては、「楽しかった」と「やや楽しかった」を含めて、96%、また、

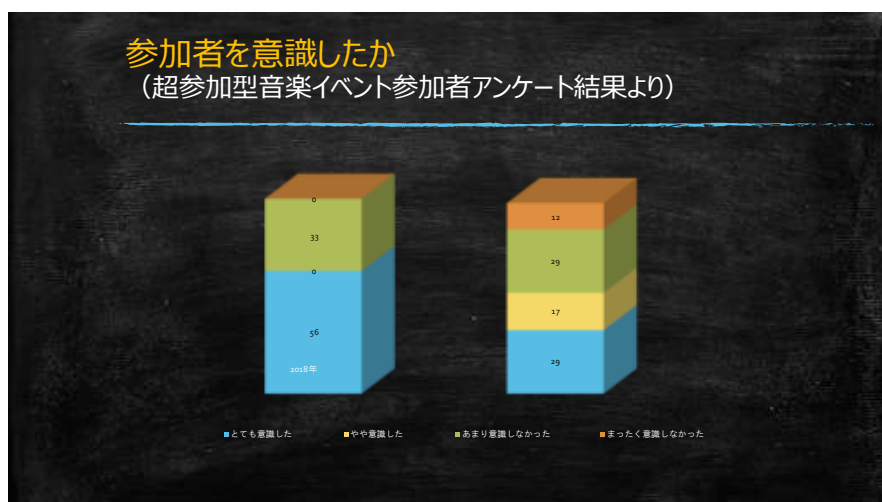
「また参加したいか」という設問に対しては、「また、参加したい」と「やや参加したい」を含めて、94%という結果でした。



次に示すグラフは、超参加型音楽イベント MLAP に参加した人を対象にした「他の参加者を意識したか」という設問に対する回答結果です。このプロジェクトは3年間実施しましたが、今年度はコロナ禍により超参加型イベントを実施する機会が1日だけだったので、1年目の2018年度と2年目の2019年度のアンケート結果で比較をしています。

超参加型音楽活動 MLAP そのものをダイバーシティーである地域社会の縮図と想定し、そこで実施される誰でも参加可能な音楽活動の参加を通して、MLAPPIES それぞれがそれぞれの方法で音楽体験を楽しみながらいつの間にかインクルージョン経験を重ねる事で、例えば超参加型音楽会 MLAP の参加者の中に、初めて会う人、年齢差がある人、性別が違う人、障がいとともにある人、外国の人がいたとしても、それほど抵抗感なく、つまりあまり意識することなく繋がりを築くことを、音楽活動は可能にするのではないか、という先行研究からの仮説に基づき、この設問をアンケートの中に入れることにしました。

結果は、1年目、「とても意識した」と「やや意識した」の合計56%から、2年目は46%へ減少し、1年目、「あまり意識しなかった」「まったく意識しなかった」の合計が33%、2年目は41%に増加しました。



MLAPの音楽活動には、近くの人とグループになって参加する活動もあります。こちらからMLAPPIESの様子を見ていると、実際にそのような活動の場合であっても、とにかく誰であれ近くの人と一緒に笑顔で活動を楽しんでいる様子が観察できます。このことは、MLAPの音楽環境の中では、普段の社会生活の中で背負っている鎧は全く意味を持たず、MLAPPIES 誰でもが、ただ音楽を楽しむ1人の人間となり得るということが言えるのかもしれませんが、それは参加者を解放感へ導いていくと考えられます。人は快と感じた経験を再び経験したいと感じ、その行動の表出頻度が増加するとすると、MLAPが楽しいと感じてくれたMLAPPIESはリピーターになってくれることも期待ができるのではないのでしょうか。

今回の調査では、ボランティアメンバーにも被験者になってもらったのですが、ボランティアメンバーは役割として参加者を意識する、ということがボランティアからの発言でわかったことから、今後継続して調査することがあれば、ボランティアメンバーは被験者から外す必要があることが解りました。

また、可能な場合においては、参加者の行動の変化を記録するために定点による動画撮影を実施しました。撮影された対象者が限られていたり、ほとんどの対象者がフレームから外れている事も多く、データをとるためには更なる精査が必要だと考えています。



超参加型音楽会<MLAP (Music with Life for All)> に関するアンケート

本日は、博多音楽療法コミュニティLINKSによる「超参加型音楽会 MLAP」にご参加くださりましてありがとうございました！是非、アンケートにご協力をお願いします！

Q1. 今回の【超参加型音楽会 MLAP】は、楽しかったですか？

とても楽しかった

やや楽しかった

やや楽しくなかった

楽しくなかった



Q2. 今回の【超参加型音楽会 MLAP】と一緒に参加された人の中に初めて会った人、年齢が離れている人、異性の人、外国の人、障がい者の人がいることを意識しましたか。

とても意識した

やや意識した

あまり意識しなかった

まったく意識しなかった

Q3. また【超参加型音楽会 MLAP】に参加したいと思いますか。

参加したい

やや参加したい

あまり参加したくない

参加したくない

Q4. 今日は誰と来ましたか？

ひとりで

友人と

家族と（構成員：

）

その他（

）

Q5. 年齢をお知らせください。

9歳以下

10代

20代

30代

40代

50代

60代

70代

80代以上

♪ 今回の【超参加型音楽会 MLAP】に対してご意見・ご感想など、ご自由にお書きください！

（紙の裏もご利用ください！）

MLAP 連携協議会委員の MLAP への想い（4年目を終えて）

♪ 福岡市市民局コミュニティ推進部生涯学習課長 山下 孝司 委員 ♪

○感想

今年度からMLAPの活動に関わるようになりましたが、コロナ禍のもと、音楽体験の場に参加することはできませんでした。MLAPの取り組みは、参加型音楽会を通して、豊かな地域生活を送ることができるようになる効果をねらいとした生涯学習プログラムであり、公民館の高齢者学級などでこの動画を見て、MLAPは、障がいの有無にかかわらず、さまざまな人が楽しみながら、一緒に活動できるプログラムだと思いました。

○課題

今年度、公民館の高齢者学級でMLAPのプログラムが活用されましたが、さらに多くの公民館で活用されるように周知方法など検討する必要があります。「MLAP公式チャンネル」での動画の配信は、今後も活用できると思います。

○展望

福岡市では、市民がさまざまな学習を通じて、自律的に豊かに生きていける社会の実現を目指しています。市民一人ひとりが、人生の充実や生活の向上を目指して、生涯にわたって学ぶことができ、その学んだ成果が、まちづくりや地域課題の解決に生かされるように、主体的な学習活動を支援しています。

MLAPのプログラムは、音楽体験を通して、障がいのある方々の社会参加できる機会が増え、地域の方々とともに活動することで、共生社会の実現にも寄与するものです。多くの公民館で、MLAPの活動が行われ、MLAPの取組を多くの人に知ってもらえるように取り組んでいきたいと思いません。

♪ 福岡市博多区保健福祉センター福祉・介護保険課長 牟田 智佳 委員 ♪

これまでMLAPの企画に参加しながら私が心がけていたことは、

- ・誰でも（オープン参加）
- ・気軽に（個々の特性に応じて参加できる内容）
- ・楽しく（専門家のスキルと経験によるプログラム）
- ・身近に（地域の日頃行っている場所で）
- ・続けて（これらがそろっていると続けて行きたくなる）

このようなプログラムを目指すことでした。

今後の展望と期待としては、まず、提供する側の課題を3つ

- ① ほしい人にほしい交流機会や生涯学習の情報が届くように
- ② 参加したい継続したい楽しさが伝わるように
- ③ 行動範囲を広げることを妨げない合理的配慮

参加する側の課題も3つ、自分を主人公にして、

- ① 自己決定力（自分がやりたいことできることを知り、周りに伝える）
- ② 相談力（やってみたい、続けたい、助けてほしい、などを人に言える）
- ③ 発信力（社会の中で自分を知ってもらい認められるのが自立の一步、孤立しない）

参加する側の課題も3つ、自分を主人公にして、

- ① 自己決定力（自分がやりたいことができることを知り、周りに伝える）
- ② 相談力（やってみたい、続けたい、助けてほしい、などを人に言える）
- ③ 発信力（社会の中で自分を知ってもらい認められるのが自立の一步、孤立しない）

最後に、身近に続けて、が大事と強調したいです。地域とは住所地ではなく、行動範囲がその人の地域社会。誰もが主体的に参加して楽しめる生涯学習を続けられる活動であってほしいと思います。

自立とは、社会の中で個人(私)が認められること。孤立とは、社会の中で関係性が途絶えること。私が繰り返し心に留めていたことです。

音楽を通じて障がいのある人たちの可能性が広がり、いろいろな人とつながる様子をたくさん目の当たりにして、驚きと感動と共に、生涯学習が掘り起こす人間の底力に期待と希望を実感しました。

障がい児・障がい者やご家族の方々、高齢者や子育て中のご家族、外国人の住民や出かけるのが難しい人たちも、もっと自分たちを知ってほしい、自分たちも一緒にやりたいと、いろいろな活動に出かけていけるといいなと思います。

様々な違いや特性を互いに知り、認め、つながり、関係が続いていくことが、人としての尊厳にもとづく共生社会の実現につながると信じています。

♪ 福岡市教育委員会発達教育センター所長 諏訪原 佳子 委員 ♪

○感想

むらっぷ！このことは、なんだか元気がでてくる、楽しくなる 音の響きだな・・・と口にするたび、耳にするたびに思っています。

楽しむことは次に進むための第一歩ではないでしょうか。

楽しいから、もっとやってみたい、もっと知りたいという気持ちがわいてきます。楽しいから繰り返すことで、できることが増えて、自信がわいてきます。自信がでてくると、新しいことにチャレンジする気になります、そして、あきらめずに根気強く続けることができます。その気持ちはまずは自分のなかからわき出し、そして、周りにも広がっていくものではないでしょうか。

超参加型音楽活動ムラップは、まさに楽しみながら、自分を、周り、そしてお互いを知り、お互いを高め、つながっていける活動だと思います。

○課題と展望

多くの人に知ってもらうこと、そして参加している人同士のつながりを作っていくことが必要だと思います。そのために、広報活動はもちろんですがオンラインで複数の会場をつないで活動を行うなどもよいのではないかと思います。

あちこちでMLAPの活動が実践され、さまざまな人々が音楽を通してつながり、高めていくことができる世の中になっていくことを期待しています！

♪ 福岡市保健福祉局障がい者部 障がい企画課施策企画係長 氷室 剛 委員 ♪

1) 総まとめ(感想)

MLAPは人と人との触れ合いや、人と人の繋がりを大事にしたプログラムですが、現在、社会がコロナ禍にあり、十分な活動がしにくい環境にありました。さまざまな制限が生じる中で、模索しながら活動となったことは否めません。しかし、そのような中でも、感染症対策を十分に行ったうえでのイベントの開催や動画配信など、今できることをすることで、昨年度と比べ、取り組みを前進させることができました。

2) 課題

1点目は、当面はコロナ禍にあっての活動になりますので「活動に制限がある中、どのように取り組んでいくのか」が課題となります。

今、取り組んでいる動画配信は有効とされます。

2点目は、「認知度を上げること」が上げられるのではないのでしょうか。

参加者の意向にもよりますが、イベントの様子や一部のメニューなどをSNSやマスコミ等で広げていくことができるといいかもしれません。

3) 展望

コロナ収束後には動画やSNSを活用しつつ、やっぱり触れ合える環境での展開を期待したいです。

まずは、今取り組んでいる公民館や障がい者の事業所での実施をコロナ収束を見据えながら、取り組んでいくことが必要かと思えます。

しかし、MLAPは障がいのあるなしに関わらず、子どもから高齢者まで幅広く展開できるプログラムです。

将来的には、子育ての場、高齢者の介護予防の場、障がい者の療育の場など、地域のさまざまな活動の場面で取り組めるのではないかと思います。

そういう意味でも継続的な取り組みを期待したいです。

♪ 福岡市立屋形原特別支援学校長 日高 徹 委員 ♪

平成18年の10月に、下山会長から「障がいのある人たちの卒後の生活をより豊かにするための学習活動について文科省の実践研究に申し込みたい」という趣旨のお電話をいただきました。さらに、推進するために協力をしてほしいとも。当時私は福岡市の特別支援学校校長会の会長をしていたこともあり、お役に立てるならと連携協議会委員を引き受けて以来、いつの間にか4年が経過しました。

この活動(MLAP)に学校としてどう関わっていけるのか、どんな連携ができるのかと模索しながらここまで来たような気がします。

授業に取り入れることはできないか、卒業生の余暇活動支援としての「青年学級」と連携できないか等、アイデアはあったのですが、新型コロナの感染もあり、実現させるまでに至らなかったことは、大きな心残りです。

MLAPの活動が共生社会の実現に有効であることは間違いないと信じています。現在、学校現場は新型コロナ感染症の拡大に振り回されています。一日も早くコロナ禍が収まり、改めてMLAPと学校との連携が実現されることを心より願っています。

♪ 福岡市立東福岡特別支援学校長 野口 信介 委員 ♪

1 総まとめ（感想）

MLAPは、音楽の持つ特性を最大限に生かしながら、参加者の実態に応じたイベントを実現するプログラムを開発し実践を積んできています。その中で、障がいのある方には、音楽と関わることで心の安定や自尊心の向上を促し、音楽を楽しむという生涯学習に通ずる機会が得られるように工夫を凝らしています。また、障がいのない人にとっては、音楽を楽しむという共通の目的のもと、障がいのある人の素晴らしい姿に触れる機会や共に歩むことのよさを味わうことができるように工夫されています。これらの工夫は、体験を通して人と人が共に活動する喜びやスキルが身につく活動へと発展し、共生社会の実現につながる活動へとつながっていきます。そして、参加者は自分で参加の仕方を選択できるため、楽しみ方も人それぞれに保証されているという面でも価値があります。

今年度も、コロナ禍による活動の制限がありましたが、YouTube 配信等による活動のバリエーションもずいぶん蓄積されています。いろいろな場所で、いろいろな人と、いろいろな関わり方ができる。この活動に触れると自然に人と人がつながっていく。そんなプログラムの開発が今後も続き、広がっていくことを期待しています。

2 課題

活動を知ってもらうための広報、活動にかかる経費など、MLAP の活動を定着させるための方略について、引き続き検討していくことが望まれる。

3 展望

- 公民館との連携による居住地域での活動の具体化
- 映像教材等の活用の具体事例の蓄積
- 行政との連携

♪ 福岡市社会福祉協議会ボランティアセンター所長 小山 浩俊 委員 ♪

1. 感想、まとめ

MLAP の活動は、特に下記の点で、有効かつ意義ある実践であると感じています。

①「音楽」というツールの強みを活かした活動

→言葉や思考を越えて楽しむことができ、自然にそこにいる人と場を共有できたり、一体感を感じられる。

②それぞれの参加の仕方、本人主体で参加ができる

→参加者が評価をされたり、活動への積極的参加を強制されたりすることがない。また、音楽の上手・下手などに関わらず誰でも参加ができ、自分なりの感じ方や表現が自由に行える。

③「障がいのある人」と「障害のない人」それぞれに変化をもたらす

→「実際に関わり、一緒に何かを楽しむ」というかけがえのない経験を通して、障がいの有無に関わらずボーダーレスにつながれることが、MLAP の魅力だと感じています。活動に関わった学生が「活動を通して障がい者のことを知り、考え方が変わった」と話していたことは印象的。障がいのある方も、参加を通して表情や言動が変化していくなど、参加した人それぞれに良い影響・変化がある取組み。

④地域共生社会につながる豊かな取組みである

→障がいのある方にとっては社会参加や豊かな地域生活へつながる機会になり、障がいのない方にとっては障がいへの理解が広がる機会になる。また、活動の中で（希望をする人は）前に立って主役になれる場があり、「誰もが役割・出番のある社会」づくりにもつながっている。

2. 課題

- コロナ禍において、「直接の人と人との交流」が難しくなっていることは(他のボランティア活動等と同様に)大きな課題です。動画配信など新たな工夫・活動によって、新たなアプローチもできた一方で、集まるのが難しくなり、MLAP の「良さ」「強み」を十分に発揮できない今の社会状況は大きな壁になっていると感じます。
- 地域で暮らす多くの住民にとって、障がいのある人と関わる機会や、障がいについて知る機会はまだまだ少ないと感じます。そのような中で、MLAP の取組みには期待と可能性を感じていますが、活動を維持していく基盤(実施メンバーの体制、活動資金、広報・周知など)が不安定であることもあり、なかなか活動の場がうまく広がっていかない面があると感じます。
- 地域共生の取組みとして広げていく上では、音楽療法の知識やノウハウ等に加え、参加者が「させられている」と感じないような適度な投げかけ・距離感で場をまわしていく配慮など、実践者に技術的なスキルがかなり求められる活動であると感じています。実践の機会(回数やエリア)を広げていくのであれば、活動を中心的に実践できるメンバーの育成が課題であると思います。

3. 展望

- 2021年度は、公民館での活動展開もできましたが、今後、こういった身近な地域での展開(地域住民と障がい者の交流の機会)がより広がっていけばと思っています。

♪ 西日本短期大学社会福祉学科教授 一山 幸子 委員 ♪

1. 総まとめ(感想)

- 1) 音楽の力は改めて素晴らしいと思いました。音楽に触れて自然に楽しめること、自発性がひとりで湧き出てくるのが分かりました。
- 2) 当事者の方が、ご自宅で MLAP の YouTube 動画を見ながらオーシャンゼリゼを身体全体で表現している姿を見ることができ、なんとかわいらしいのだろうかと感動いたしました。頭、肩、お腹、足のタッチなどとても上手に動作の真似をして踊っている様子や、タンバリンを叩きながら、ぴょんぴょんと飛び跳ねて喜んでおられること、またその笑顔は、ご本人だけでなく周りの人達も皆幸せな気持ちになると思いました。特に、親御さん方は、ご自分の子どもさんがそのように MLAP の音楽によって表情が明るくなり、行動が活発になり、楽しく過ごせることは、この上なく嬉しいことではないかと想像いたします。
- 3) MLAP は誰が参加をしても優しい笑顔で迎え入れて下さり、どのような参加の形であっても受け入れられる安心、安全で守られている環境があります。米倉先生、下山会長様はじめスペシャルなスタッフの皆様のサポートにより、非常に心地良い場所であると思います。非常に居心地が良い MLAP に参加をすることによって、自己表現ができ、辛いことがあってもリフレッシュでき、元気が得られると考えます。皆の前で表現や発表をすることによって、気持ちが前向きになり自信を持つことができるようになると思います。
- 4) 赤ちゃん(胎児)から高齢者の方まで、全ての人が誰でも参加できるのが MLAP です。障がいがある子ども達は、幼少期や学齢期の時期から MLAP を体験しておくことによって、自分の楽しみを見出し、生涯学習の機会として学校卒業後も MLAP に参加していくことができると思います。社会性、社会適応能力、コミュニケーション能力、MLAP の活動場所までの交通手段を習得することなど、MLAP は生きる力を獲得していくことができると考えます。
- 5) 西日本短期大学には、ネパール、ベトナム、中国、スリランカなど様々な国からはるばる来日して一生懸命に学んでいる学生達があります。日本人学生も外国人学生も沢山の学生達が MLAP のボランティアに参加させて頂きました。皆生き生きと参加させて頂き、ボランティア養成講座の受講も併せて学ばせて頂きました。国籍、性別(LGBT)、年齢、障がいの有無等は無関係なく、全ての人が

認められ、一人一人が尊重され大事にされるのが MLAP であり、MLAP は共生社会を創り上げていくことができる、そして学生達が学ばせて頂ける貴重な機会であると思います。障がいがある子ども達への関わり方、どのような形の参加方法でも構わないこと、危険でないように見守ること、親御さんの思いを知ること、等々 MLAP に参加させて頂き大変貴重な学びとなりました。

- 6) 当事者の方からの感想です：「MLAP に参加をして、君が笑えばとオーシャンゼリゼが一番かなり魅力があったので、またやってほしいです。他の曲もすごく良かったです。米倉先生と下山会長さんに今度直接言います。」この感想を言って下さった方は、いつも私に電話をして「今度いつ MLAP があるのか教えて下さい」と、次回の MLAP 音楽会をととても楽しみにしておられます。

以下の■3点は、MLAP 3年間の総まとめで報告いたしました内容です。

■ボランティア学生の感想

- 1) MLAP 参加者のみなさんの笑顔が見られて元気が出た
- 2) 人前に出て踊りなどをするのは心配だったが、みなさんから拍手をもらって、自信を持って前に出て踊りなどをすることができるようになった
- 3) 障がいがある方と初めて関わり勉強になった
- 4) 最初は緊張してどのように接したら良いか分からなかったが、子どもたちとビートンなどの体験を重ねていくうちに、お互い楽しく参加できるようになった
- 5) 担当の子どもが踊って見せたり手を握ってくれたりして、とても嬉しかった
- 6) もっと日本の美しい歌を覚えたいと思った
- 7) もっと手話の歌を覚えたいと思った
- 8) とても楽しかったのでまた参加したい、もっとボランティアに参加したいと思った
- 9) MLAP での和太鼓演奏は最高だった
- 10) 人の役に立つものならば、もっとたくさん頑張りたい、できることを増やしたいと思った
- 11) 就職してからも、この経験が活かせると思う

■ボランティア学生の変化

- 1) 学生達は学びたい、色々なことを体験したい、知りたいと希望している。
したがって、MLAP の音楽体験、人との関わりが楽しい思い出となり
自信を持つことができるようになる、学習意欲やボランティア意欲、やる気の向上につながった。
- 2) 自分自身も「むらっぱー」になりたい、さらに「むらっぱーを増やしたい」という気持ちになり、自分だけでなく他のクラスメイトや後輩たちにボランティアはとても楽しいし勉強になるから一緒にしましょうとメンバーを呼びかける行動が起こっている。
また、手話の歌を発表したい、手話歌の動画を作りたいなどという新しいことに挑戦する力が育っている。
- 3) MLAP の音楽活動体験及びボランティア養成講座によって、学生達はボランティアを体験しながら関わり方や障がい等の知識・技術を学び体得していく。MLAP は、貴重な人間教育の場であると考えられる。

■ご近所応援団、地域の方々の感想

- 1) MLAP に参加をして、誰でも楽しめる音楽活動を地域の活動（ふれあいサロン等）でも、ぜひ取り入れてやってみたい。（民生委員さんより）
子どもが保育園の音楽発表会の練習で嫌な思いをしており、楽器がある集まりを見るだけで逃げたり泣いたりしてしまう。させられると感じると逃げて嫌がる。音楽は大好きなのに。MLAP の動画を見たりしながら少しずつ参加できたらと思っている。
保育園にこそ MLAP が必要ではないかと思う。（発達障がいがある子どものお母さんより）

2) 動画を見て、オーシャンゼリゼに合わせた体操はユニークです。音楽は誰の心にも飛び込んできて、人に活力とエネルギーを与えてくれるものです。(元気塾 塾長さんより)

2. 課題

- 1) MLAP を継続していくための場所
- 2) MLAP の資金
- 3) MLAP の周知方法
- 4) MLAP につながりたい人たちのつながり方
- 5) ムラッパーを増やす

3. 展望

- 1) MLAP の場所：ふくふくプラザ、公民館、集会所、西日本短期大学、なみきスクエア、障がい者スポーツセンターさんさんプラザ、あいあいセンター、障がい者施設、高齢者施設
- 2) MLAP の資金：MLAP のスタッフの方々が会場までにかかった交通費を依頼者側が負担する
- 3) MLAP の周知方法：
手をつなぐ育成会保護者会事務局、福岡市ホームページ、Facebook、MLAP 連携協議会委員、福岡県・福岡市・中央区社会福祉協議会、ふくふくプラザ、公民館、福岡県・福岡市教育委員会、福岡市教育委員会学生サポーター制度、西日本短期大学他関係大学、ご近所応援団、福岡発達障害つなぐ会、障害者施設、高齢者施設、学びあいネット、YouTube 動画、などから MLAP の情報を発信する
- 4) MLAP につながりたい人たちのつながり方：
 - ①参加申込は、「福岡市手をつなぐ育成会保護者会」で申し込みができることを福岡市ホームページに掲載するなどして周知する。
 - ②MLAP が福岡市・福岡県社会福祉協議会にボランティア登録をする
 - ③誰もがつながることができるアプリを活用する（山本先生作成）
 - ④MLAP 参加希望者は、メーリングリストに登録する
※ご近所応援団、福岡発達障害つなぐ会は、メーリングリストを作成しています。
- 5) ムラッパーを増やす
3)・4) の周知の内容としてムラッパーを募集する。
西日本短期大学（社会福祉会サークル）の学生に周知し養成する。
ムラッパー養成講座を開講する。

♪ 西日本短期大学社会福祉学科講師 山本 恭大 委員 ♪

1) MLAP 活動の感想

MLAP の活動に携わったきっかけは、コロナ禍で STAYHOME を呼びかけられ密な接触に恐怖を感じていた期間に「どうにか MLAP の活動を継続することができないか」というご相談からでした。その日は西日本短期大学の一山教授より下山会長をご紹介いただき、YOUTUBE の公式チャンネル作成のご提案などをさせて頂きましたが、コロナ騒動が長引くにつれ「オンライン MLAP」の意義と可能性を強く実感しています。YOUTUBE の動画再生の傾向を分析することで、編集の際に気を付けないといけないことなども見えてきました。報告会では実際に使用している利用者の姿を映像を通して見ることができ新たな気づきもありました。それは利用者の他に周りの保護者や

施設の方が一緒に時間を過ごし、ハイタッチなどを利用者の方と一緒にしている事でした。当たり前のことのように、普段自分が子供に動画を見せるときは、動画に子守りを任せるような状況で自分は別の作業を行っていることが多いのですが、MLAPの動画の場合は「あらゆる人に生涯音楽プロジェクト」であるMLAPの真骨頂なのか、映像を見ている人全員が自然と参加してしまっているのだと思いました（しかも笑顔で）。私の編集が遅く、まだまだ公開が追いついていませんが、「オーシャンゼリゼ」は原点にして頂点なのではないかと思っています。

1) 課題

自分の課題ですが、MLAPの良さを動画の編集できっちりと伝えられるように、編集ガイドラインを作成したほうが良いかと思っています。

2) 展望

展望も動画についてのみですが、一般公開した2本の動画が、検索などでも出てきているので、このまま定期的に活動の様子を公開すれば、MLAPの活動が周知され日も近いと思います。

♪ 社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会指定障がい福祉サービス

ひまわりパーク上牟田施設長 吉富 孝史 委員 ♪

私は福祉事業所の職員であり、「MLAP」の、いちファンでもあります。

福祉事業所と一言でいても様々な形態がありますが、当事業所は18歳以上の成人者で日中活動を提供している事業所です。知的に障がいを持った方の比率が高いですが、様々な障がいをもった方々がいます。

MLAPとの出会いは4年前でした。MLAPが事業所にやってくる。地域の皆様との交流会を行うイベントに来て頂くよう段取りをしていたところ、「その前に一度、事業所の雰囲気や利用者の皆さんと会いたい。」ということで来て頂いたのが始まりでした。

当日のことを今でも印象的に覚えています。

それは聴覚障がい者の方（Aさん）や視覚障がいの方（Bさん）始まりと終わりの表情や態度の変わり方がとてもすごかったからです。

来ていただく前に、音楽について「音を楽しむ」ことは耳だけではなく、リズムや振動も含めて提供してくれる。体全体で感じることもできる。と何度も伝えたのですが、両者ともにあまり良い反応は示されませんでした。それどころかAさんに至っては「俺の人生において音楽なんて存在しない。楽しめたことなんて一度もない。耳が聞こえないんだぞ。当日、俺はいなくていいんだろ。」と全くの拒否状態でした。何度も話を交わすことでようやく参加へとこぎつけたのです。なんとも言えない不安を抱えた私の心情はMLAPの皆様には打ち明けられずに当日を迎えました。

当日、MLAPの皆様が音合わせをしているところへAさんが大股で向かい「俺は聴覚障がいなんだ。分かってて音楽するんだろ。」と障がい者手帳を見せての威嚇に近いアピールをされました。当然、Aさんは困惑するMLAPの皆様を想像していたところ「ウェルカム。」と迎え入れられたのです。Aさんの肩透かしをくらった表情と、「わかんないのか。仕方がない。職員と何度も話したから形だけでも参加してやるか。」と会が始まるまでの訝しげな表情からの始まりでした。

視覚障がいの方も同じ気持ち、同じ表情での始まりでした。ところが会はオールスタンディングでの拍手喝采で終わりました。

昭和の曲に始まり現在のアイドル曲、手話を用いた曲、体全体を用いたダンス曲などバラエティに富んだ曲目とカスタネットやトライアングル等、簡単に扱うことの出来る打楽器の数々を用いた音楽など、内容は老若男女だけではなく皆が楽しめるものでした。AさんもBさんも訝しげな表情はなくなり満面の笑みどころかアンコールまで。手を大きく叩いて私の心情同様に表してくれていました。

音のない世界に音が加わった。Aさん、Bさんに更に豊かな人生へと歩をすすめてくれた。そんな当日を今でも覚えています。

「MLAP：超参加型音楽活動」はそれから何度か体験させて頂く機会を得ました。毎回楽しみに参加しています。ときには大きな打楽器まで持ってきていただいたこともあります。体全体に振動を感じて所見の方とも笑いあったことも思い出です。

「音楽」とは世界共通のもの。いつでも楽しむことの出来るもの。価値観も一人一人異なれば趣味も異なるが音楽には垣根のない。などたくさんの表現があると思います。

障がいをもった方々だけではなく色々な方に楽しんでもらいたい。一度体験すればその楽しさを経験値として人生の一部に加えることが出来ます。しかし、経験する機会を創出することや、特別なんだけど特別ではなく誰でも参加できるものというところが今後の課題だと思います。

また、「共生社会のかけはしに」というサブタイトル同様、公民館や子どもプラザ、地域の子供会健全育成会や老人施設等でも活動を展開して欲しい。音楽活動に参加する当事者に着目するだけではなく、子どもや介護者が参加している時に同じ思いや悩みを抱える保護者や介助者、支援員が交流ができる時間や場を設けてくれる。そんな引き出しも開いてくれる MLAP も期待します。

♪ DCFA 協会員 ドラムサークル福岡主催者 天野 英樹 委員 ♪

1) 総まとめ（感想）

コロナ禍がつづき、ほとんど活動に参加できませんでした。リアルな場での活動を実践したい気持ちがありますが、感染のことを考えると躊躇してしまい、なかなか思うようにいかない日々。早くリアルに音楽活動ができるようになることを願うばかりです。

2) 課題

アフターコロナにおける参加型音楽活動の価値

3) 展望

音楽は楽しいものであり、みんなが一体となれるものであるという価値を柱に、コロナ禍においての新しい参加型音楽を推進していきたいです。

♪ 知的障がいのある当事者 牛丸 健児 委員 ♪

これからもMLAPに参加して、ボランティアをしたいです。手話もできます。



♪4年間ありがとう
ございました♪♪
お疲れ様でした♪

博多音楽療法コミュニティ LINKS

♪ 音楽療法士 押本 恵 さん ♪

コンサートでは参加者の皆さまと楽しい時間を過ごせました。感染対策で人とのコミュニケーションも制限される現在ですが、そんな中でも音楽でできることを模索していきたいとおもいます。

♪ 音楽療法士 川嶋 茉莉子 さん ♪

1) 総まとめ（感想）

コロナ禍での活動は、たくさんの課題に直面しました。この時期だからこそ出来ること、制限された中でも楽しめることを一緒に考えてきました。ZoomでのミーティングやLINEでの意見交換を密に行い、メンバーとの関係性も強くなり、大きな力になったと思います。

2) 課題

MLAPの活動を広めたい、音楽の楽しさを体験して欲しいという強い気持ちはあります。しかしながら、メンバーもそれぞれに仕事を持っていて、イベントが増えたら参加が厳しくなると思います。今後は、以前から課題となっていたムラッパーの育成を、行政の協力を得て行うことはできないのでしょうか？

3) 展望

今後も続けて行けたらいいと思っています。コロナが落ち着いたら、メンバーを増やしイベントを増やし、活動地域を広げられたらと思っています。

♪ 音楽療法士 古賀 朋香 さん ♪

1) 総まとめ（感想）

これまで、MLAPの実践の面で主に、携わらせていただきました。ですが、様々な方のサポートがないと、プロジェクトとして、成り立っていないことを実感する最後の年になりました。これまで、積み重ねたMLAPの現場があり、卒後の知的障がい者の当事者の方をはじめ、参加する皆さんの輪が重なってきて、実践内容もその雰囲気に応じて、変化できてきた様子が見られています。音の輪の広がり方、展開の仕方は、ムラップの実践時に、参加者の反応によってその雰囲気も違ってきます。現在は、今まで参加してきてくださった方が、かなりリードして下さり、それに加えて、新たに参加してくださった方が、より一層楽しめているのではないかと、感じる次第です。

下山会長をはじめ、連携協議会の方、実行委員会でもより深く携わってくださった方、リンクスメンバーの協力あって、私たちも実践を行い、生涯学習を目的とした、音楽活動を行うことができたのではないかと思います。

2) 課題

継続して、今後も活動として、成り立っていけるのか…サポートして下さる方がいるからこそ、実践をスムーズにできていたシステムづくりが、円滑に行われる組織形成が必要だと感じています。

3) 展望

卒後の方が、地域社会でつながりを持ち、音楽活動を通して、より生きやすい社会づくりを促進できるように、MLAPが広がっていけばいいなと思っています。来年度は、公民館において、当事者と地域の人が実際にMLAPにてつながりを持てたら、幸いです。

♪ 音楽療法士 柴田 佳代子 さん ♪

MLAPが始まってあっという間に4年が経ちました。初めの頃はたくさんのイベントに参加させて頂いたり音楽会を企画したりと、慌ただしくも楽しく活動に参加することができました。研修のため県外のイベントに参加することもあり、今まで以上に自分のスキルアップにもなるいい経験をたくさんできました。しかしこれからどんどんMLAPを広めていこうと意気込んでいた矢先コロナ禍になり、当初予定していた計画とは大きく異なる状況になりました。感染予防の観点からあらゆるイベントが中止になり、どうすることも出来ず悩むこともありました。そんな中でたくさんの方の助言を頂きながらYouTubeの動画撮影に取り組み始めることになりました。なかなか慣れず戸惑いながらでしたがLINKSメンバーと打ち合わせしながらの撮影はとても楽しいものでした。その後、楽しそうに動画を見てくださいる方の映像も見せていただきやっよかったなと思いました。会えなくても楽しめるコンテンツ作りはとても大切なことだなと思いつつ、やはり実際に会って人と人との関わりを作っていくことがこのプロジェクトの大切な役割だと感じているので、これからは感染予防をしながら行えるイベントも増やしていかなければならないなと思いました。また実践するメンバーが更に増えると幅広く活動できるなと思いました。早く以前のような音楽活動が出来ることを願います。

♪ 音楽療法士 中田 哲也 さん ♪

1) 感想

私だけ物理的に離れた位置にいるため、またコロナも全く落ち着かないこともあり、実際に現場で実践することができず、申し訳ない気持ち・歯痒い気持ちでいっぱいです。一方、zoomなどで話し合いには参加でき意見も述べる事が出来たことで、所属意識を持つことはできたのではないかなと思う。

リモートでも楽しみながら参加して下さっている動画を拝見でき、何よりも嬉しかった。今までは直接現場で即時にフィードバック（声・表情）があったが、リモートだと発信者側には閲覧数など数値的なフィードバックはあるものの、「これで楽しめているかな？」という疑問を感じてしまう。

2) 課題

コロナが落ち着いていれば現場で実践。コロナが広がり始めたら延期や中止・またはリモートへの切り替え。音楽療法の特性上、この2つのやり方の切り替えをスムーズに行うことが難しかった。

3) 展望

リモートも含めたやり方に柔軟性を持たせながら、そのときに出来得る100%の事を行っていく。これを機に、MLAPなりのリモートの行い方を確立しておく。

♪ 音楽療法士 野田 恵美 さん ♪

MLAP が始まってあっという間に4年が経ちました。初めの頃はたくさんのイベントに参加させて頂いたり音楽会を企画したりと、慌ただしくも楽しく活動に参加することができました。研修のため県外のイベントに参加することもあり、今まで以上に自分のスキルアップにもなるいい経験をたくさんできました。しかしこれからどんどん MLAP を広めていこうと意気込んでいた矢先コロナ禍になり、当初予定していた計画とは大きく異なる状況になりました。感染予防の観点からあらゆるイベントが中止になり、どうすることも出来ず悩むこともありました。そんな中でたくさんの方の助言を頂きながら YouTube の動画撮影に取り組み始めることになりました。なかなか慣れず戸惑いながらでしたが LINKS メンバーと打ち合わせしながらの撮影はとても楽しいものでした。その後、楽しそうに動画を見てくださる方の映像も見せていただきやってよかったなと思いました。会えなくても楽しめるコンテンツ作りはとても大切なことだと思いつつ、やはり実際に会って人と人との関わりを作っていくことがこのプロジェクトの大切な役割だと感じているので、これからは感染予防をしながら行えるイベントも増やしていかなければならないなと思いました。また実践するメンバーが更に増えると幅広く活動できるなと思いました。早く以前のような音楽活動が出来ることを願います。

♪ 音楽療法士 米倉 裕子 さん ♪

YES! MUSIC! YES! LIFE! YES! MUSIC! YES! MLAP!





2021 連携協議会開催報告

第1回連携協議会

日時：2021年 7月 13日（火）18：00～20：00

オンライン・会場併催

司会：下山 いわ子

内容：今年度の活動計画について

第2回連携協議会

日時：2022年 1月 21日（金）13：30～15：30

オンライン・会場併催

司会：下山 いわ子

内容：活動経過報告・実践研究経過報告・本事業終了後について

2021 実行委員会開催報告

第1回実行委員会

日時：2021年 7月 1日（火）16：10～17：00

場所：オンライン・福岡市役所7階 市民局障がい学習課

司会：下山 いわ子

内容：今年度の活動計画について・三筑公民館での実施に向けて

第2回実行委員会

日時：2021年 10月 6日（水）18：30～20：00

オンライン・会場併催

司会：下山 いわ子

内容：活動経過報告・実践研究経過報告・三筑公民館での実施に向けて

第3回実行委員会

日時：2021年 12月 27日（月）18：00～19：30

オンライン・会場併催

司会：下山 いわ子

内容：報告会について・今年度の実践報告・今後の実行委員会

連携協議会構成員



米倉 裕子	MLAP コーディネーター・音楽療法士
山下 孝司	福岡市市民局コミュニティ推進部生涯学習課長
牟田 智佳	福岡市博多区保健福祉センター福祉・介護保険課長
諏訪原 佳子	福岡市教育委員会発達教育センター所長
氷室 剛	福岡市保健福祉局障がい者部障がい企画課施策企画係長
日高 徹	福岡市立屋形原特別支援学校長
野口 信介	福岡市立東福岡特別支援学校長
小山 浩俊	福岡市社会福祉協議会ボランティアセンター所長
一山 幸子	西日本短期大学社会福祉学科教授
山本 恭大	西日本短期大学社会福祉学科講師
水野 英尚	地域生活ケアセンター小さなたね所長
竹内 巖	社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会 指定共同生活援助事業 早良ひまわりハウス施設長
吉富 孝史	社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会 指定障がい福祉サービス ひまわりパーク上牟田施設長
天野 秀樹	DCFA 協会員 福岡ドラムサークル主宰者
古賀 朋香	音楽療法士 博多音楽療法コミュニティ LINKS メンバー
牛丸 健児	知的障がいのある当事者
下山 いわ子	福岡市手をつなぐ育成会保護者会長

実行委員会構成員

山下 孝司	福岡市市民局コミュニティ推進部生涯学習課長
篠崎 智恵子	福岡市市民局コミュニティ推進部生涯学習課係長
山本 恭大	西日本短期大学社会福祉学科講師
米倉 裕子	MLAP コーディネーター・音楽療法士
古賀 朋香	音楽療法士 博多音楽療法コミュニティ LINKS メンバー
下山 いわ子	福岡市手をつなぐ育成会保護者会会長



ひとりで悩まないで！
仲間がいますよ

福岡市手をつなぐ育成会 保護者会

知的障がい者の権利擁護の団体として
知的障がいのある本人とその家族が安全・安心で
幸せに暮らせる共生社会を目指して運動しています。



お問い合わせ

〒810-0062

福岡市中央区荒戸3-3-39 ふくふくプラザ 4階

TEL 092-713-1480

FAX 092-715-3561

e-mail hogsha@fiku.jp

ホームページ <http://www.fiku.jp/hogoshakai/use.html>



福岡市手をつなぐ育成会保護者会

団体の活動目的

知的障がい者の権利擁護の団体として
知的障がいのある本人とその家族が
安全・安心で幸せに暮らせる社会を目指して
活動しています。

ひとりで悩まないで！なかまがいますよ』というメッセージを
発信しています。

(対象) 会員に限らず、福岡市全域の知的障がいのある本人と家族・関係者

(活動内容)

(障がいのある本人支援)

- 障がいのある本人のコミュニケーション力を育むための療育の場や
余暇活動の場の提供
- ◇ 音楽あそび：音楽療法士と学生ボランティアの協力によって行う。
- ◇ 1泊2日の療育キャンプ：
 - ことばの発達・療育の専門家と学生ボランティアの協力によって行う。
 - 仲間や学生ボランティアの方たちと好きなことをして、自由に過ごす居場所を
提供。
- ◇ オープンスペース：トランプやゲームをしたり、料理をしたり、少し離れて
ゆったりしたり。開催時間内であれば、自由に出入り可。

(家族支援)

- 障がいのある子どもをもつ保護者の研修や集う場所の提供
 - 一番身近な保護者が、よりよい支援者・理解者になるための研修
- ◇ ことばの学習会・個別相談会
- ◇ 障がいの理解や成長の見守り方、子育ての仕方などの研修
- ◇ 将来を考えるヒントを得るための、事業所での保護者の作業体験
- ◇ 生活に直結する福祉や制度についての研修
- 仲間と会って、ありのままの自分で、ありのままの話ができる居場所づくり。
障がいのある子どもも家族も一人の人として前向きな気持ちや自己肯定感を
もち、親も子も自立できる可能性に気づき、自己実現を図っていける力を
備えられるよう支援する。
- ◇ 毎月1回定期的に行う定例会や家族支援ワークショップを行う。

(障がいのある本人や家族の権利擁護と当事者としての提言)

(福祉的活動の協力)

(啓発活動) 知的障がいや発達障がいの障がい理解のための疑似体験型啓発活動



文部科学省総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課障害学習支援推進室
2021年度「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進実践研究事業」参画事業
一あらゆる人に生涯音楽プロジェクト—
MUSIC with LIFE for ALL PROJECT

M L A P

(ムラップ)

2021年度

地域連携による障がい者の生涯学習機会の拡大促進を

総合的に支援するための

超参加型の音楽活動を軸とした実践研究



2022年2月 発行

編集人 米倉 裕子

発行人 下山 いわ子

福岡市手をつなぐ育成会保護者会

〒810-0062 福岡市中央区荒戸 3-3-39 福岡市市民福祉プラザ4階

TEL 092-713-1480

EMAIL hogsha@fiku.jp